



Japan Electric Measuring Instruments  
Manufacturers' Association

No. 4

Oct 2009 vol.46  
[www.jemima.or.jp](http://www.jemima.or.jp)

# JEMIMA会報

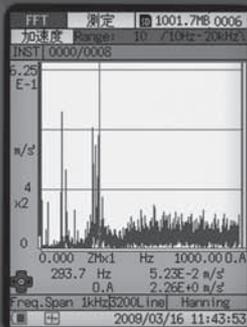


社団法人 日本電気計測器工業会

現場における振動計測および  
設備診断に最適

現場計測に対応したハンディタイプ  
振動分析計

VA-12 **NEW**



3つのモードを持った  
VIBRATION・ANALYZER

- 振動計モード： 加速度・速度・変位および波高率の同時測定が可能
- FFTモード： 時間波形表示やスペクトル表示ができ、  
最大3200ラインの周波数分析が可能。  
また、包絡線処理も可能
- 波形モード： 振動波形の記録を行い、記録波形はWAVEファイルで、  
メモ리카ード (SDカード) に保存可能
- オプションで、良否判定ができるコンパレータソフトがあります。

## 目 次

●「計測展2009TOKYO」 間もなく開催！	2
●IEC/TC45 横浜会議・パシフィコ横浜で開催	7
●平成21年度工業標準化表彰の受賞について	11
●欧州環境規制レポート（第17回）	13
●委員会報告	
・ ロッテルダム条約に基づくトリブチルスズ含有製品の輸出規制について	15
・ P A ・ F A 計測制御委員会 機能安全調査研究WG 活動報告	19
・ 海外危機管理への啓蒙と体制構築に関する講演会開催される	20
・ 計測展2009TOKYO「相談コーナー」のご案内	21
●セミナー開催ご案内	
・ 技術戦略マップ2009 講演会 開催報告	22
●新刊案内	
・ ハンドキャリー手続きマニュアル	23
・ 安全計装の理解のために「JIS C 0511 機能安全—プロセス産業分野の安全計装システム」の解説	24
●お知らせ	
・ 新入会員 ・ 会委員会社の社名変更	24
・ 経済産業省からのお知らせ	25
・ 「システムコントロールフェア2009」開催のご紹介	27
●委員会開催録	28
●統計（電気計測器生産統計 2009年8月実績）	33
●計測会館・界限探訪（4）	35
●広告掲載会社	
リオン株式会社	表 2
株式会社コスモス・コーポレーション	表 3
計測展 2009 TOKYO	表 4
経済産業省 中小企業庁	26頁

### ●今号の表紙

山梨県 北杜市 増富 通仙峡の秋です。

ここを少し登ると世界有数のラジウム含有量を誇る「増富ラジウム温泉峡」があります。3回ほど冷泉（約20℃。源泉です）と温泉（加熱したもの）の出入りを繰り返すと、体がピリピリしてきて「効いた」感じがします。壁には全国から来た滞在者の手紙が貼ってあり、効能は確かなようです。

そして、さらに上流へ行くと、水量ではかきませんが「ミニ奥入瀬」といった風情の溪流が続きます。四季折々の風景が楽しめます。家族連れが川べりで楽しんでいるのをよく見かけます。

しかし下流にある撮影場所の渓谷は急流で、嵐のあとは恐ろしいほどの響きをたてて水が押し寄せてきます。

当日は、前日からの雨で、たくさんの落ち葉が岩のくぼみにたまっていました。

使用機材：カメラ CONTAX 645  
レンズ APOマクロプラナー120mm F4.0  
絞り F16 シャッター速度 1秒  
マイナス1/3補正  
フィルム RVP50

（撮影：佐藤健治）

### ●JEMIMA会報

2009/Vol.46No.4 2009年10月30日発行

発行 社団法人日本電気計測器工業会（JEMIMA）

本部 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-15-12  
（計測会館）

電話03-3662-8184（直） FAX03-3662-8180

関西支部 〒530-0047 大阪市北区西天満6-8-7

（電子会館8階）

電話06-6316-1741 FAX06-6316-1751

編集事務局 総務・事業・広報部

印刷 日本印刷株式会社

### ●会報送付の変更・停止

kimura@jemima.or.jpまでご連絡をお願いします。

●次回発行予定 2010年1月30日

●禁無断転載

## 「計測展2009 TOKYO」間もなく開催！

計測展2009 TOKYO 実行委員会

「計測展2009 TOKYO」を11月18日(水)から東京ビッグサイトで開催いたします。只今、事前登録受付中です。多数のご来場をお待ちしています。

\*最新情報・事前登録：<http://www.jemima.or.jp>

### I. 開催概要

1. 名称：[和文]「計測展2009 TOKYO」  
[英文]「Measurement and Control Show 2009 TOKYO」
2. テーマ：計測と制御で創る、未来の地球
3. 会期：2009年11月18日(水)～11月20日(金) 3日間
4. 会場：東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）西ホール
5. 主催：(社)日本電気計測器工業会
6. 共催：日経BP社
7. 後援：文部科学省、経済産業省、環境省
8. 協賛：(独)産業技術総合研究所、(独)製品評価技術基盤機構、日本電気計器検定所、(財)日本品質保証機構、日本貿易振興機構（ジェトロ）、(社)計測自動制御学会、(社)日本機械学会、(社)日本計量機器工業連合会、(社)日本電機工業会、(社)日本電気制御機器工業会、(社)日本分析機器工業会
9. 入場料：1,000円（消費税込み） ※事前登録者・招待券持参者は無料

### II. 開催規模

1. 出展規模：90社（機関・委員会含）・274小間
2. 参加国・地域数：5カ国(ドイツ、イギリス、アメリカ、韓国、日本)
3. 併催事業
  - ①テクニカルセミナー 9社・14テーマ
  - ②JEMIMA委員会セミナー 3委員会・3テーマ
  - ③特別基調講演・基調講演・講演会 5テーマ
  - ④専門カンファレンス 3セッション
  - ⑤チュートリアル 3セッション

### III. 同時期開催展相互入場

同時期に東京ビッグサイト東ホールで開催される下記の3展示会には、計測展のご招待券・来場者証・出展者証で無料入場が可能です。(要登録)

- ①INCHEM TOKYO 2009 プラントショー／先端材料展
- ②メンテナンス・テクノショー2009
- ③非破壊評価総合展2009

[問い合わせ先] (社)日本電気計測器工業会 展示部

TEL：03-3662-8184/FAX：03-3662-8180/E-mail：[jemima-showtokyo@jemima.or.jp](mailto:jemima-showtokyo@jemima.or.jp)

以上

## 「計測展2009TOKYO」出展企業・団体一覧

2009.10.15

No.	企業・団体名	計測展2009TOKYO出展申込状況				No.	企業・団体名	計測展2009TOKYO出展申込状況						
		展示会	企画展示	テーマ数	備考			展示会	企画展示	テーマ数	備考			
	[正会員]													
1	アンリツ(株)	2					[トライアルブース]							
2	岩通計測(株)	2				1	(株)アイメック	1						
3	NEC Avio赤外線テクノロジー(株)	1				2	(株)アルトソフト	1						
4	(株)エヌエフ回路設計ブロック	2		1		3	エスオーエル(株)	1						
5	荏原実業(株)	4				4	オプトエナジー(株)	1						
6	(株)岡崎製作所	2				5	サンライズ合同会社	1						
7	(株)共和電業	2				6	住友精密工業(株)	1						
8	島津システムソリューションズ(株)	9		1		7	(株)東洋信号通信社	1						
9	(株)チノー	8		1		8	(株)ユニティクス	1						
10	東亜ディーケーケー(株)	3				9	(株)エスパーク	1						
11	(株)東芝	15		2		10	M&M Software GmbH [ドイツ]	1						
12	(株)日立ハイテクトレーディング	9				11	創価大学	1						
13	富士電機システムズ(株)	12		1		12	(株)シンクチューブ	1						
14	(株)堀場製作所	12		2		13	ビズ・フォース(株)	1						
15	(株)山武	40		3		14	(株)セレス	1						
16	山里産業(株)	1				15	京都試作センター(株)	1						
17	リオン(株)	2					[小計:国内]	14社						
18	リーダー電子(株)	3						13						
19	(株)エネゲート	1					[小計:海外]	1社						
	[小計:国内]	19社		7社				1						
		130		11										
	[賛助会員]						[独立法人・関連機関]							
1	ABB(株)	9				1	(社)計測自動制御学会	1						
2	(株)コスモス・コーポレーション	1				2	(独)産業技術総合研究所 計量標準総合センター	2						
3	日本キスラー(株)	1				3	(独)製品評価技術基盤機構 認定センター	2						
4	日本ナショナルインスツルメンツ(株)	6				4	(株)東北テクノアーチ	1						
	[小計:国内]	4社				5	日本電気計器検定所	2						
		17				6	(財)日本品質保証機構	2						
	[一般]						[書籍販売コーナー]							
1	NPO法人 日本フィールドバス協会	2		2		1	(株)オプトロニクス社	1						
2	NPO法人 日本プロファイバス協会	3		1		2	(株)技術調査会	1						
3	(株)エミック	1				3	(有)工業技術社	1						
4	大倉電気(株)	3				4	(株)重化学工業通信社	1						
5	(株)大手技研	2				5	(株)電波新聞社	1						
6	(株)九州共販	1				6	日本工業出版(株)	1						
7	西華産業(株)	1				7	日経BP社	2						
8	(株)センサスヤマモト	1				8	リード・ビジネス・インフォメーション(株)	1						
9	(株)田中電気研究所	1				9	(株)環境新聞社	1						
10	東海ビジョン(株)	1					[JEMIMAコーナー]							
11	(株)日本ファインケム	1				1	法規制・規格委員会	1						
12	ヴァイサラ(株)	2				2	校正事業推進委員会	2						
13	ヒーマ日本支社	2				3	PA・FA計測制御委員会	1						
14	(株)平井	1					[小計:国内]	18社						
15	フジコウ工業(株)	1						24						
16	(株)豊光社	1					[企画展示コーナー]		50					
17	大陽工業(株)	1				1	(社)日本電気計測器工業会							
18	(株)松島機械研究所	1				2	温暖化問題対応WG							
19	ミッシェル ジャパン(株)	2				3	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構							
20	(株)ミッシュインターナショナル	2				4	(独)産業技術総合研究所							
21	(株)ナックイメージテクノロジー	1					[合計]	86社	4社					
22	(株)レーザー計測	1						224	50					
23	(株)オーエステクノロジー	1					[総合計]	90社	9社					
24	森合精機(株)	1						274	14					
	[小計:国内]	24社		2社										
		33		3										
	[一般・海外]													
1	Softing AG ガイロジック(株) [ドイツ]	2												
2	HART Communication Foundation [アメリカ]	1												
3	Korea Maintenance Co.,Ltd [韓国]	1												
4	LEONI Kerpen GmbH [ドイツ]													
5	HAWKE International [イギリス]	2												
6	ペンフィールド エレクトリック ジャパン(株)													
	[小計:国内]	1社												
		1												
	[小計:海外]	5社												
		5												

## 「計測展2009 TOKYO」セミナープログラム

[聴講無料・事前申込制]

## ■JEMIMA委員会セミナー

会場: 展示会場内特設会場

11月18日(水) 13:30~16:30	11月19日(木) 13:30~16:30	11月20日(金) 13:30~16:30
<b>【J1】PA・FA計測制御委員会</b> 1.「次世代工業用無線通信技術について」 工業用無線技術調査研究WG 2.「機能安全規格が変える産業分野の安全」 機能安全調査研究WG 3.「生産制御システムのセキュリティ」 セキュリティ調査研究WG	<b>【J2】校正事業推進委員会</b> 「広がる校正サービス2009 ~ユーザニーズとJCSSの事業拡大~」	<b>【J3】環境グリーン委員会</b> 「計測制御機器を取り巻く環境規制動向と JEMIMAの地球温暖化問題への対応と貢献」

## ■テクニカルセミナー

会場: 西展示棟2階

月日	時間帯	A会場	B会場
11/18(水)	14:00~14:45	【TS1】(株)山武 azbilグループのJCSS/ISO17025校正事業 (水の液体流量)の展望	【TS2】(株)エヌエフ回路設計ブロック 太陽電池模擬装置によるエヌエフ環境エネルギーソ リューション
	15:00~15:45	【TS3】(株)東芝 東芝産業用コンピュータの環境と信頼性 技術	【TS4】(株)チノー 2,000画素の小形熱画像センサとその用途事例
11/19(木)	14:00~14:45	【TS5】(株)山武 工業プロセス用調節弁の技術課題と国際 標準規格	【TS6】(株)堀場製作所 新しい国内防爆指針に適合した『新型防爆ガス分析計』 のご紹介
	15:00~15:45	【TS7】NPO法人 日本フィールドバス協会 ユーザ視点でのFOUNDATIONフィールド バスの診断技術	【TS8】富士電機システムズ(株) 安全で安心なものづくりを実現するセーフティインダスト オートメーション
11/20(金)	13:00~13:45	【TS9】(株)東芝 操業ボトルネック改善~見える化から実得 る化へ	【TS10】(株)堀場製作所 メンテナンス負荷50%削減を可能にする『新型現場型pH 計』のご紹介
	14:00~14:45	【TS11】NPO法人 日本プロフィバス協会 オープンフィールドネットワークPROFIBUS PROFINETのメリット	【TS12】島津システムソリューションズ(株) より身近に、より使いやすく~進化を続けるDCS METRIS- LT+~
	15:00~15:45	【TS13】NPO法人 日本フィールドバス協会 FOUNDATIONフィールドバスの最新技術 紹介	【TS14】(株)山武 工場省エネソリューション ENEOPT

# 計測展2009 TOKYO セミナープログラム

## ■特別基調講演・基調講演・講演会

11月18日(水)	K1 基調講演会(※受講無料・定員150名) 展示会場内特設会場 11:00~12:30	K2 特別基調講演(※受講無料・定員300名) 会議棟 レセプションホールB 14:30~16:00
	人工衛星『いぶき』による宇宙からの温室効果ガス濃度の高精度計測と国際協力 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙利用ミッション本部 GOSATプロジェクトチーム プロジェクトマネージャ事務代理 中島 正勝 氏 今年の1月に打ち上げられた「いぶき」は、温暖化に関する議論などにデータを提供するために二酸化炭素及びメタンの全球濃度分布を観測する人工衛星である。この「いぶき」はフーリエ分光計を用いて宇宙から温室効果ガス濃度を計測しており、この計測方法について他の衛星や方法との比較なども交えて紹介する。加えて「いぶき」計画の立ち上げや目的、データ提供実施体制、他国や地域との国際的な協力などについても紹介する。	研究開発戦略と技術戦略マップ -オープンイノベーションに向けて- 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課 企画官 福田 賢一 氏 現代の研究開発戦略は、外部連携の深化が大きな流れとなっており、技術の掛け合わせや融合から新たな価値の創出を目指している。本講演では、計量・計測を始めとする30分野について、将来の技術動向をまとめた「技術戦略マップ」を紹介する。技術動向を俯瞰できるとともに、異分野・異業種融合の助けともなるものである。
11月19日(木)	K3 講演会(※受講無料・定員150名) 展示会場内特設会場 11:00~12:30	
	イノベーションの時代における国際標準化 ①国際標準化の戦略的展開と最近の動向 経済産業省 産業技術環境局 情報電子標準化推進室長 井上 幹邦 氏	①ISO、IEC等の国際標準化における我が国の取組み状況を報告するとともに、産業オートメーション分野をはじめとする国際標準化の最近の動向について紹介する。
	②国際標準化活動は事業に貢献する 国際電気標準会議 評議委員会 三菱電機(株) 開発本部役員技監 八木 重典 氏	②初めに、日本の国際ビジネスを取りまく状況、特に国際標準が絡む脅威について現状認識を述べる。次に、IEC-CB(評議会)日本代表委員としての活動・知見をふまえ、国際標準の意義を再認識する。結論として、国際事業の隘路を突破するとともに、さらなる発展のためにわが国産業の注力すべき標準化活動の方向性を論じる。
	③国際標準化の動向と計測自動制御学会の果たすべき役割 電気通信大学 システム工学科教授、SICE国際標準化委員会委員長 新 誠一 氏	③複数企画の並立に向かいつつある国際標準化の新しい動向とともに、計測制御分野における標準化活動状況を国内審議団体(JEMIMA、MSTC、JARAなど)の活動も交えて紹介する。さらに、このような活動を支援する計測自動制御学会の国際標準化委員会のミッションおよび活動現況を紹介する。
11月19日(木)	K4 基調講演(※受講無料・定員300名) 会議棟 レセプションホールB 13:30~15:00	
	新エネルギー時代の計測制御技術展望 ①次世代生産システムと計装制御技術 社団法人 計測自動制御学会フェロー、元三菱化学株式会社 理事 元名古屋工業大学 工学研究科 教授 工学博士 伊藤 利昭 氏	①プロセス産業は、材料・エネルギーなどの資源を知識・技術を用いて価値ある製品に変換することを業としている。資源優位にない日本のプロセス産業が今後も持続的に発展するためには、競争力の源泉を絶え間ない技術の革新/進歩におく知識・技術集約型産業を目指さねばならない。本講演ではこれらを考慮した次世代生産システムと計装制御技術が果たすべき役割について述べる。
	②変革をリードする 日揮株式会社 常務取締役 エンジニアリング本部長兼情報システム統括担当役員(CIO) 三浦 秀秋 氏	②計装制御エンジニアの持つ強みとしてロジカルであること、積極的に新しい事を探り入れること、マネジメント感覚を持っていること、...が挙げられる。即ち、皆さんが計装制御エンジニアであると言うことは、新時代、新エネルギー時代、さらには新技術を担う技術者としての素養を十分に有しているということです。では、更に自分を磨き成長するにはどうするべきか...? 私自身の体験も踏まえて、本講演の中で一緒に考えたいと思う。
11月20日(金)	K5 基調講演(※受講無料・定員150名) 展示会場内特設会場 11:00~12:30	
	新興市場とオーバースペックシンドローム 立命館大学経営学部 准教授 東京大学ものづくり経営研究センター特任研究員 善本 哲夫 氏 基本性能を下げ、価格を下げるのが、新興市場に合わせた「オーバースペックの是正」ではない。過剰設計・過剰品質かどうかは顧客(市場)が決める。新興市場では、価格も問題になるが、日本企業は高機能・高品質製品の良さを伝える努力をしているだろうか。悲観的かつ過剰なオーバースペック論を見直し、顧客に「納得の論理」を提供することが、今の日本企業に必要な論点である。	

■専門カンファレンス(有料・定員100名) 会議棟101会議室

■チュートリアル(有料・定員100名) 会議棟102会議室

11月18日(水)	<p>C1 13:30~15:30 13:30~14:30 エネルギーの情報化とスマートグリッド</p> <p>京都大学 大学院情報学研究所 教授 松山 隆司 氏</p> <p>「エネルギーの情報化」は、電力網の高機能化を目指して欧米で活発な研究開発活動が始められているスマートグリッドとは異なり、生活環境における多様なエネルギー(電気、熱、風など)の流れや変化を可視化するとともに、EoD(Energy on Demand)プロトコルに基づいた、エネルギーの蓄積・制御や異なったエネルギー間の相互変換機能を駆使して、従来の個別的省エネ技術では実現がむずかかった超省エネ生活環境、コミュニティの実現を目指すものである。本講演では、スマートグリッドと対比させながら、エネルギーの情報化のアイデア、技術開発の現状、今後の展開を紹介する。</p>	<p>T1 13:30~15:30 13:30~14:30 電子計測技術者のためのアナログ技術再入門(1) 測定対象物からAD変換器まで</p> <p>神奈川工科大学 工学部 電気電子情報工学科 教授 小室 貴紀 氏</p> <p>デジタル技術の重要性は言うまでもないが、測定対象物(DUT)と測定器を結ぶ部分はアナログ信号の場合が多く、アナログ技術を理解することも必要である。本講演では、直流から数GHz程度の周波数の信号に対して、DUTと測定器の接続における注意事項をまとめる形で、電子計測におけるアナログ技術をわかりやすく解説する。</p>
	<p>14:30~15:30 稚内メガソーラー発電所における計測技術</p> <p>北海道電力株式会社 総合研究所 太陽光発電プロジェクト推進室 室長 齊藤 裕 氏</p> <p>NEDO技術開発機構の委託研究事業である国内最大級の稚内メガソーラー発電所では、発電所の遠隔監視・制御、発電所保護および研究データの収集、さらには気象観測のための計測技術は欠かせない分野である。本講演では、電力設備の計測と太陽光発電所としての計測の面から、計測の実態や課題などについて解説する。</p>	<p>14:30~15:30 電子計測技術者のためのアナログ技術再入門(2) AD変換器のデジタル誤差補正・自己校正技術</p> <p>群馬大学 大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 教授 小林 春夫 氏</p> <p>近年、微細CMOSを用いたAD変換器の高機能化技術としてデジタル誤差補正技術・自己校正技術が大きな関心を集めている。これは回路構成・動作に冗長性をもたせてエラーが生じても正解を出力できる、回路の非理想的要因を自分自身の回路を用いて自動的に計測し、補正するというように、AD変換器チップ内に信号処理技術・計測制御技術を用いて高性能化を図る技術である。逐次比較近似AD変換器、パイプラインAD変換器、インタリーフAD変換器等を例にとり、これらの技術をわかりやすく解説する。</p>
11月19日(木)	<p>C2 13:30~15:30 13:30~14:30 高速伝送系設計と波形品質評価の勘所</p> <p>日立情報通信エンジニアリング株式会社 プラットフォームテクノロジー事業部 シニアスペシャリスト 高田 芳文 氏</p> <p>数Gビット/秒あるいは10Gビット/秒を超えるような装置内の高速インタフェース技術はサーバー機やルータのみならず、今後は民生機器などでも使われるとみられる。本講演では装置内でこのような高速伝送設計を行う際に踏まえておくべき要点や伝送波形品質の評価方法を解説する。</p>	<p>T2 13:30~15:30 電子機器内のEMC問題の評価手法と対策 —デジタル無線通信機能を持つモバイル機器における自家中毒—</p> <p>太陽誘電(株) EMCセンター課長 風間 智 氏</p> <p>デジタル無線通信機能を持つモバイル機器において自家中毒問題を引き起こすノイズの有効な測定手法であるAPD(amplitude probability distribution: 振幅確率分布)を用いたノイズの評価方法を基礎から説明すると共に、その手法を用いた具体的な自家中毒の対策事例を紹介する。</p>
	<p>14:30~15:30 高速伝送のジッター・ワンダ計測手法と標準化</p> <p>アンリツ株式会社 R&amp;D統括本部 第1商品開発部 担当部長 石部 和彦 氏</p> <p>近年、通信インフラの飛躍的な容量増大および低コスト化に対応すべく、さまざまな伝送技術が標準化され、導入が進められている。ITU-T SG15では、導入時の要となるジッター・ワンダ計測手法の標準化を進めている。本講演では、40G SDH/OTNおよびシンクロナスEthernetのジッター・ワンダ計測手法と最新の標準化情報について解説する。</p>	
11月20日(金)	<p>C3 13:30~15:30 13:30~14:30 3次元システム化構想を支える5つのポイント</p> <p>コグネックス株式会社 MVSDマーケティング本部 本部長 池田 政昭 氏</p> <p>画像処理機器を使ったシステムはメカ装置との組み合わせ制御技術として進歩してきたが、2次元画像処理技術が成熟期を迎えるにあたり、ハンドリングできる案件の難易度に限界が見えてきている。人の目・手足の代わりに完全自動化を目指した高度な装置を目標とした場合、次世代装置の成功のカギは、「立体的なアSEMBルパーツ」をいかにハンドリングできるかにかかっている。本公演では3次元アプリケーション成功へのアプローチ方法を投資効果の観点をベースに考察する。</p>	<p>T3 13:30~15:30 実時間高速ビジョンとその工業応用について</p> <p>広島大学 工学研究科 複雑システム工学専攻 教授 石井 抱 氏</p> <p>秒間1,000コマ以上で動作する実時間高速ビジョンを概説し、カラー追跡、オプティカルフロー検出等の動作事例を通じ、人間の視覚能力を超えるハイパービジョンとしての有効性を論じる。また、工業計測に向けた開発事例を紹介し、生産ラインでの即時検査に向けた実時間センシングツールとしての可能性を議論する。</p>
	<p>14:30~15:30 人の五感による「官能検査」の自動化</p> <p>パナソニック電工株式会社 制御技術応用研究所 副参事 池田 和隆 氏</p> <p>製造の過程や最終工程で実施される製品の検査は、人の五感による「官能検査」が行われている。全数の安定した検査には自動化が必須である。従来の絶対計測ではない、人の感覚に近い相対的で知能的な自動検査を開発。これは、現物の状態を記憶、知識化し、計測物をその知識と照合する機能である。その手法と展開を紹介する。</p>	

# IEC/TC45横浜会議・パシフィコ横浜で開催

(社)日本電気計測器工業会  
技術・標準部 高橋 義雄

## 1. はじめに

IEC/TC45 (International Electrotechnical Commission / Technical Committee 45 : Nuclear Instrumentation = 原子力計測) の国際会議が2009年9月10日(木)から9月18日(金)まで、パシフィコ横浜他、横浜地区で開催されました。

IEC/TC45はJEMIMAが国内審議団体として国から委託され、IEC/TC45国内委員会を組織して規格審議、提案を行っています。



〈正面玄関看板の写真〉

## 2. IEC/TC45概要

IEC/TC45は、電気・電子関連の国際標準化団体であるIECの専門委員会の一つで原子力計測・計装に関する規格を審議しています。IEC/TC45会議は第1回が1960年にインドのニューデリーで開催されて以来18ヶ月ごとに各国持ち回りで開催されています。日本では1981年の東京、1993年の京都に続いて今回の横浜は3回目の開催となりました。

TC45(原子力計測専門委員会)には2つの分科委員会、SC45A(原子力施設の計測制御)およびSC45B(放射線防護計測)、関係する作業グループ(WG)、特定の文書を審議するプロジェクトチーム(PT)、TC45運営の全体に係わる事項を審議する諮問委員会(CAG)、並びに必要に応じて設置されるアドホック作業グループがあり、今回横浜会議にてそれぞれ必要な議論を行いました。

TC45の委員会・WG構成を以下にまとめます。

### 【TC45：原子力計測専門委員会】

WG1：用語・分類

WG9：放射線検出器とシステム

PT62495：放射線利用計測装置IEC 62495の審議

PT60405：放射線利用計測装置IEC 60405の審議

CAG：Committee Advisory Group

### 【SC45A：原子力施設の計測制御分科委員会】

WG2：検出器および計測手法

WG3：原子力発電プラント安全へのデジタルプロセッサの適用

WG5：原子炉特殊計装・放射線モニタ

WG7：原子炉安全系電気機器の信頼性

WG8：制御室

WG9：原子炉計測システム

WG10：原子力発電プラント計測制御システムの改善と近代化

Ad hoc WG：アドホック作業グループ

### 【SC45B：放射線防護計測分科委員会】

WG5：環境モニタリング用放射線防護計器

WG8：電子式能動的線量当量(率)計及びモニタ

WG9：原子力施設の据付式放射線モニタ

WG10：ラドン及びラドン壊変生成物測定装置

WG13：空气中放射能測定用放射線防護計器

WG14：外部放射線モニタリングに対する受動式線量計測システム

WG15：スペクトロメトリ・作業用電子式線量計・携帯型線量率計による不法往来監視測定装置

Ad hoc WG：アドホック作業グループ

### 3. IEC/TC45横浜会議開催の様子

17カ国から150名の各国を代表する専門家が23の委員会（プレナリ会議、WG会議）に出席しました。参加者の多い順に国名を上げると、フランス、米国が共に18名、韓国が14名、ドイツ、英国が10名、中国が6名、カナダ、スウェーデンが5名、ロシアが4名で、特にフランス、米国の原子力に賭ける意気込みが感じられます。海外からの参加者合計が99名、国内からの参加者が51名でした。



SC45A会議



WGA 10会議

〈IEC/TC45横浜会議タイムテーブル〉

TC45/SC45A/SC45B Meeting Timetable and Rooms Yokohama Japan, 10 to 18 September 2009															
TC/SC /WG	Thu 10/09		Fri 11/09		Mon 14/09		Tue 15/09		Wed 16/09		Thu 17/09		Fri 18/09		Room
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	
TC 45													X*6)	X	3F Lounge
CAG meeting								X*1)							413
WG1					X	X	X	X	X	X					415
WG9							X	X	X	X					311
PT							X	X	X	X	X	X			312
SC 45A												X*2)			3F Lounge
Ad hoc					X*3)										418
WG A2					X	X	X								417
WG A3	X	X	X	X											3306(MHI)
					X	X	X	X	X	X					418
WG A5					X	X	X	X	X	X					416
WG A7					X	X	X	X	X	X					411
WG A8					X	X	X	X	X	X					412
WG A9								X	X	X					417
WG A10					X	X	X	X	X	X					414
SC 45B													X*4)		3F Lounge
Ad hoc						X*5)									413
WG B5	X	X	X	X											R/M5(TKP)
WG B8	X	X	X	X											R/M3(TKP)
WG B9	X	X	X	X											R/M1+2(TKP)
WG B10					X	X	X	X							421
WG B13					X	X	X	X							422
WG B14									X	X					422
WG B15					X	X	X	X	X	X					413

**Notice** (MHI) : Mitsubishi Heavy Industries, LTD (TKP) : Concurred Yokohama Conference Center  
 No indicator : Pacifico Yokohama Conference Center  
 \*1) The Committee Advisory Group (CAG) meeting will take place from 17:00 to 19:00.  
 \*2) The SC45A meeting will take place from 8:00 to 12:00.  
 \*3) The SC45A Ad Hoc meeting will take place from 8:00 to 9:00.  
 \*4) The SC45B meeting will take place from 13:00 to 17:00.  
 \*5) The SC45B Ad Hoc meeting will take place from 17:00 to 18:00  
 \*6) The TC45 meeting will take place from 08:00 to 12:45.

〈各国参加者リスト〉

〈国別参加者数〉		会議参加者	夕食会
①	Japan	51	50
②	Austria	1	1
③	Canada	5	6
④	China	6	6
⑤	Finland	1	1
⑥	France	18	17
⑦	Germany	10	8
⑧	IEC Central Office	1	1
⑨	Korea	14	12
⑩	Norway	0	0
⑪	Romania	1	2
⑫	Russian Federation	4	4
⑬	Sweden	5	7
⑭	Switzerland	2	3
⑮	Ukraine	2	3
⑯	United Kingdom	10	10
⑰	USA	18	20
⑱	Ireland	0	0
⑲	Israel	1	0
⑳	Italy	0	0
		150	151

17カ国より150名の参加  
Norway,Ireland,Italyは登録はしたが不参加であった

9月14日（月）の夜には立食形式のウェルカムパーティー、9月16日の夜は着席式のディナーパーティーを開催し、各々140名、および150名の以上の参加を得て、IEC国際委員メンバーと業界トップ、国内関連技術者との間で積極的な情報交換が行われました。

今回、日本でのIEC/TC45プレナリ会議開催を成功裏に終えることができたことは、原子力計測分野で今後益々重要になる国際標準化活動において、我が国の積極的な取り組み姿勢とプレゼンスをアピールする絶好の機会であったし、非常に有意義であったと思います。



（ディナーパーティー）

---

#### 4. おわりに

日本からはオブザーバも含め51名の多数の参加がありましたが、長年参加しているテクニカルエキスパートの一人から「ようやくJIS規格の考え方をIEC規格に反映させることが出来た。」と言っているのを聞いて、日本の若手にも国際規格策定のキーマンとなる方が現れてきたことに安堵感を抱いたものでした。日本から参加のエキスパートが会社や組織の都合で2～3年で次々と担当が変わり、「ただ様子を見る、情報を取って帰る。」という目的のためだけに参加しているとしたら、そのWGでの存在はなかなか認知されないと言っても良いでしょう。はっきりとした規格に対する自分の考え方、主張を持ち、少なくとも5年～10年のスパンでWGに参加し続けて、そして今回のプレナリ会議以外の中間のWGにも出席して初めてその人からのコメントはWGメンバーに理解され、規格策定に影響を持つものと思います。今回は多数の若手エキスパートの初参加もあり将来に向かって大変期待されるものと実感いたしました。

また、今までIEC/TC45プレナリ会議の参加者はFAXなど紙による参加登録を行ってきましたが、今回の横浜会議からIECセントラルオフィス運営のウェブサイトによる参加登録方式に変更されました。参加者はあらかじめ本人用にIDとパスワードを事務局経由、日本規格協会から取得し、参加する委員会、WG、ディナーに登録をしました。事務局ではウェブサイト上で変化する参加登録状況を確認することが出来て、会議場設営準備に都合が良かったと思います。

最後に今回のTC45横浜会議開催にあたって開催をご承認頂き、支援をして頂いた組織委員会の方々、準備作業に労をいとわず、ご協力頂いた実行委員会の方々、とりわけ実務者会合（実行委員会メンバーの中から実務的なこまごまとした事柄を引き受けて頂いた）の方々には大変お世話になりました。心よりお礼を申し上げます。



---

## 平成21年度工業標準化表彰の受賞について

標記の表彰に於ける国際標準化貢献者・奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）を下記の3名の方が受賞されました。当工業会にとりまして大変名誉なことであり、次のとおりご報告申し上げます。

1. 国際標準化貢献者表彰 : 後藤 昌彦 氏  
National Research Council of Canada  
Institute for National Measurement Standards Visiting Scientist
2. 国際標準化貢献者表彰 : 桧野 良穂 氏  
独立行政法人産業技術総合研究所 計測標準研究部門  
副研究部門長 量子放射科長
3. 国際標準化奨励者表彰 : 幅口 健二 氏  
横河電機株式会社 IA事業部システム事業センターハードウェア技術Gr

### <主な功績>

後藤 昌彦 氏

I E C / T C 65 / S C 65 B / W G 5（工業用プロセス計測制御／装置／温度検出端）の国内委員会主査を務めるとともに、W G 5の日本代表委員として活躍し、日本のプレゼンスを高め、日本意見を積極的にI E C規格に反映させるべく長年にわたり尽力。また、平成20年5月には同W G 5のコンビナーに選任され国際標準化を主導するなど、当該分野の国際標準化活動の強化に貢献。

桧野 良穂 氏

平成6年からI E C / T C 45 / S C 45 B（原子力計測／放射線防護計測）において作業環境中の放射性物質のモニタリング装置に関する2つのW Gにエキスパートとして参画し、我が国の技術的意見を積極的に反映するなど国際標準化の強化に貢献。また、平成17年からは同T C 45国内審議委員長として、我が国意見のとりまとめを行うなど国際標準化活動の強化に貢献。

幅口 健二 氏

I E C / T C 65 / S C 65 C / J W G 10（工業用ケーブル）において、国内委員会幹事として日本意見のとりまとめやコメントの編集を行うと共に、エキスパートとして国際審議に参画しており、フィールドバス関連規格に日本案を組み込むことにも成功。今後とも積極的な国際標準化活動に期待。

なお、表彰式は、10月15日（木）都市センターホテルにて行われました。

以上



10月15日（木）都市センターホテルに於ける表彰式



表彰状を手にする柚木様（松野様の代理）（左）、後藤様（中）と幅口様（右）



## 欧州環境規制レポート（第17回）

環境グリーン委員会  
副委員長 小山師真<sup>(※)</sup>

今年の欧州（ベルギー）の夏は、ここ数年と比較し暑く晴れた日が多かった印象です。8月になればもうすっかり秋という気候が当たり前ですが、今年は8月になっても30℃を超える日があり海は賑わったようです。私事ながら8月に1週間夏休みをいただき、ギリシアのエーゲ海に浮かぶ小島、サントリーニ島へ行ってきました。不況下でバカンスに出かけるヨーロッパ人は減少しているという報道はありますが、それでもたくさんの方が賑わっていました。ヨーロッパ諸国から人が押し寄せてくるだけあって難なく英語が通じる一方、あいさつくらいはギリシア語でと思っただけでしたが、挫折したことは言うまでもありません。

さて今年7月から12月まではスウェーデンがEU議長国となっていることから、特に環境政策分野においてはリーダーシップを発揮して取り組んでいます。最重要政策課題はもちろん12月に迫ったCOP15<sup>1</sup>への対応だと言われています。議長国スウェーデンのウェブサイトからさまざまな情報を見ることができます。  
<http://www.se2009.eu/>

### RoHS指令はすべての電気・電子機器が対象へ

これまでも本誌にて紹介してきたとおり、RoHS指令改正案審議が、欧州議会より先行して欧州理事会WPE（Council Working Party on Environment）にて実施されています。

夏までに行われた理事会WPEでの議論を踏まえ、スウェーデンは9月3日に議長国提案を行いました。それによれば、カテゴリーや製品リストの考え方を廃し、原則すべての電気・電子機器をRoHS指令の対象へ含め、RoHS指令から除外される製品のみを列記したネガティブリストへの移行を提案しています。

欧州議会でRoHS指令改正案を担当している緑の党（The Greens | European Free Alliance）政策アドバイザーも、トースターやデジタルカメラなどがリストから抜け落ちており、そのようなことを避けるためにも、カテゴリーや製品リストの考え方を捨て、すべての電気電子機器を原則対象とすべきだと言っています。

### WEEE/RoHS指令改正案審議スケジュール遅れる見込み

2009年9月末時点では、欧州議会における最初の手続き（第一読会）が終了するのは2010年5月ごろと予定されています。当初は2009年末にも終了するのではないかと聞いておりましたが、短くても半年程度遅れる見込みです。WEEE指令改正案と平行審議で行われるため、RoHS指令改正案も同じ時間軸となっており、WEEE指令改正案の審議に時間がかかるという見方もあることから、審議スケジュールについては、まだかなり流動的です。

<sup>1</sup> 国連気候変動枠組条約締約国会議（Conference of Parties）の略。2009年12月7日から19日まで、デンマークの首都コペンハーゲンで行われる予定。

## REACH規則：第二回目のSVHC候補案の発表

9月1日にECHA（欧州化学品庁）は新たに15物質のSVHC（高懸念物質）候補案を発表しました。すでに影響調査を兼ねて含有有無の確認を始めておられると思いますが、一部CAS番号が付記されていないものがあるなど、調査が難しいものも見受けられます。

これら第二次候補物質はコンサルテーション等の手続きを経て、正式にSVHCとしてリストされます。正式に発表があつてから直ちにREACH 31条・33条義務が始まります。

SVHCは今後、毎年2回のアップデートが予定されていますので、引き続きその動向には留意が必要です。

## 拡大するEuP（エコデザイン）指令の対象製品

2005年にスタートしたEuP指令ですが、すでに多くの分野・製品において実施措置指令が策定されています。すでに公布済み・これから検討するものを合わせると対象分野・製品は30をすでに大きく超えています。

これまで消費者製品を主体にEuPの検討が行われてきましたが、工作機械など産業機器にも徐々に対象が広がっています。

これからの課題として懸念しているものは、運輸エネルギー総局が担当するLot-26（ネットワークスタンバイ・ロス）です。これから2年にわたるPreparatory Study(予備調査)<sup>2</sup>を経て立法化される見込みですが、対象製品目も決まっていない状況です。近年多くの計測制御機器がネットワーク対応型となっていると思いますが、その観点からも大変興味深いLotとなっています。

(\* 株式会社堀場製作所 ブラッセル駐在事務所)



<sup>2</sup> <http://www.ecostandby.org/>

# ロッテルダム条約に基づくトリブチルスズ含有製品の 輸出規制について

環境グリーン委員会  
輸出管理委員会

2009年2月1日付けで改正施行された「輸出貿易管理令の運用について（以下、運用通達と記す）」において、「トリブチルスズ化合物」が輸出規制品目として追加されました。また、これに関連して、一部の化学物質メーカーよりシリコン製品へのトリブチルスズ含有の案内が発行されています。

会員企業におかれましては、電気計測機器等の組立品（アッセンブリ）の輸出、又はシリコン製品等の化学物質単体を生産用資材若しくは保守用部品等として輸出の際には、本案内を参考にして輸出承認の可否を的確に判定いただいた上で、輸出されるようご案内いたします。

## [運用通達の改正内容]

トリブチルスズ化合物は、2008年12月17日付けでロッテルダム条約の規制化学物質に追加されました。ロッテルダム条約の規制物質は輸出貿易管理令（以下、輸出令と記す）別表第2の35の3項（1）で規制されており、規制物質名を具体的に規定している運用通達にトリブチルスズ化合物が追加されました。条約改正を受けての運用通達改正です。

（注1）輸出令別表第2の35の3項（1）の規定に該当する物質を輸出する場合には、経済産業大臣の承認を得る必要があります。

（注2）輸出令別表第2の35の3項（1）は、次のようにロッテルダム条約に基づいています。

「国際貿易の対象となる特定の有害な化学物質及び駆除剤についての事前のかつ情報に基づく同意の手続に関するロッテルダム条約附属書Ⅲ上欄に掲げる化学物質」

## ロッテルダム条約とは

正式名称は "The Rotterdam Convention on the Prior Informed Consent Procedure for Certain Hazardous Chemicals and Pesticides in International Trade (PIC)" 条約、「国際貿易の対象となる特定の有害な化学物質及び駆除剤についての事前のかつ情報に基づく同意の手続に関するロッテルダム条約」です。

先進国では廃絶されている有害な化学物質や駆除剤が、法整備の整っていない開発途上国で使用され、健康被害や環境汚染を引き起こすことの無いようにとの主旨で締結された条約です。我が国では、2004年9月13日から同条約の効力が生じています。詳細には、以下のサイトをご参照ください。

- ・条約事務局 <http://www.pic.int/>
- ・外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/jyoyaku/rotterda.html>
- ・トリブチルスズの規制品目への追加（経済産業省）  
[http://www.meti.go.jp/policy/external\\_economy/trade\\_control/boekikanri/downloadfiles/topics/2009/export-chuijikou210123.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade_control/boekikanri/downloadfiles/topics/2009/export-chuijikou210123.pdf)

## [規制に該当するか否かの該非判定及び輸出承認申請について]

電気計測機器等の組立品（アセンブリ）にトリブチルスズ化合物を含有した材料を使用していたとしても、運用通達の除外規定を適用できれば規制対象外となります。まずは除外規定の適用可否を判定すると効率的です。

除外規定には、例えば「他の貨物の部分をなしているもの（貨物の主体が他の貨物である場合に限る。）であって、当該貨物と分離しがたい状態にあり、かつ、その状態において主たる貨物の用途以外の用途に用いることができないもの」ということがあります。

環境グリーン委員会では、除外規定の適用可否について経済産業省化学物質管理課（本規制の相談窓口）に、次の問い合わせを行いました。

環境グリーン委員会の質問	経済産業省の回答
トリブチルスズ化合物を含有する湿気硬化方型シリコーンを、プリント基板などへ電子部品を固定するために使用後硬化させたものは、ロッテルダム条約でいうところの混合物に当たるか？	使用後硬化させたものはその状態が最終形態であり、それを別の用途に用いることができないと考えられることから、承認が必要な化学物質にはあたらない。

自社の製品への組み込み・使用状態を確認し、サプライヤからの該非判定報告書を参考にしながら、運用通達の除外規定を適用可能か否か判断することとなります。

### 運用通達における輸出貿易管理令(輸出令)別表第2の解釈(抜粋)

輸出貿易管理令の運用について（運用通達）

（中略）

#### 2 輸出の承認

（中略）

##### 2-1-1 輸出令別表第2に掲げられている貨物に関する輸出の承認

（中略）

#### (5) 輸出令別表第2の解釈

輸出令別表第2の解釈は、次の表に掲げるところにより行う。

（中略）

ただし、輸出令別表第2の中欄に掲げる貨物であっても、次の(イ)から(ハ)までに掲げるものは、別表第2品目に含まれないものとする。

(イ) 包装用として使用されているもの

(ロ) 他の貨物の部分をなしているもの（貨物の主体が他の貨物である場合に限る。）であって、当該貨物と分離しがたい状態にあり、かつ、その状態において主たる貨物の用途以外の用途に用いることができないもの

(ハ) 他の貨物を主体とするセットものの一部となっているものであって、当該貨物とともに梱包又は包装されたもの

(イ)、(ロ)、(ハ)が、  
規制除外されるものです。



一方、シリコン製品等を、原型又は容器を移す等して、その特性を維持したまま、海外工場への支給又は保守用部品として販売等のために輸出する場合には、運用通達の除外規定は適用できません。この場合、サプライヤからの該非判定書を参考にした上で、輸出令別表第2該当品ならば経済産業省に輸出承認を申請すべきです。

尚、2009年7月29日付で「化学物質の輸出承認について」の一部改正が施行されました。貨物の質量に対するトリブチルスズの質量の割合が0.05パーセント以下の場合には輸出承認手続きが免除されます。ただし、そのトリブチルスズ化合物が「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に規定する第一種特定化学物質の場合は手続き免除の対象にはなりません。

### 輸出承認申請の手続き

輸出承認申請については経済産業省ウェブサイトの「化学物質の輸出承認について」に従ってください。

[http://www.meti.go.jp/policy/external\\_economy/trade\\_control/boekikanri/kagakubussitu.htm](http://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade_control/boekikanri/kagakubussitu.htm)

また、2009年7月29日付『「化学物質の輸出承認について」の一部改正について』に関する詳細は以下のサイトをご参照下さい。

[http://www.meti.go.jp/policy/external\\_economy/trade\\_control/boekikanri/downloadfiles/topics/2009/export-chuijikou210729.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade_control/boekikanri/downloadfiles/topics/2009/export-chuijikou210729.pdf)

### 輸出貿易管理令別表第2の35の3の項(1)に掲げる貨物

(ロッテルダム条約附属書Ⅲに掲げる化学物質)

化学物質の名称	CAS番号	分類
(1)～(24) 省略		
(25)トリブチルスズ化合物(ビス(トリブチルスズ)＝オキシド、トリブチルスズ＝フルオリド、トリブチルスズ＝メタクリラート、トリブチルスズ＝ベンゾエート、トリブチルスズ＝クロリド、トリブチルスズ＝リノリエート、トリブチルスズ＝ナフテナートを含む全て)	8001-35-256-35-9(ビス(トリブチルスズ)＝オキシド) 1983-10-4(トリブチルスズ＝フルオリド) 2155-70-6(トリブチルスズ＝メタクリラート) 4342-36-3(トリブチルスズ＝ベンゾエート) 1461-22-9(トリブチルスズ＝クロリド) 24124-25-2(トリブチルスズ＝リノリエート) 85409-17-2(トリブチルスズ＝ナフテナート)	駆除剤
(26)～ 省略		

## [サプライチェーン川上の化学物質メーカーからの注意喚起、通知文について]

これまでに、当工業会宛にシリコーン製品サプライヤである2社から、微量にトリブチルスズ化合物を含有している製品が存在する旨の告知・案内をいただいております。告知文には、各社の規制該当製品の商品名が掲載されています。今回、ページ数の都合により告知文書をそのまま会報へ掲載することが出来ないため、告知内容の概要のみ記しています。会員各社への告知文書開示については両社の了解を得ておりますので、JEMIMAウェブサイトの会員専用ページには掲載してあります。会員各社においてはJEMIMAウェブサイトをご参照ください。

当委員会で把握している情報は上記2社によるもののみですが、川上のサプライヤが発信した情報がサプライチェーンの途中で埋没してしまう例もございます。会員各社において、上記2社以外の情報をお持ちの場合には、当委員会までお知らせいただけるようお願いいたします。

## [サプライチェーン川下の国内注文主等からの調査依頼等に対して]

会員各社の国内納入先(サプライチェーンでいう川下の国内注文主)等から、規制に該当するか否かについて、輸出令別表第2に対する該非判定を求められることが想定されます。

本案内を参考に、輸出令別表第1に対する該非判定報告書と同様に、別表第2に対する該非判定報告書を発行ください。

### シリコーン製品サプライヤ発行の通知文に記載されている内容

#### [S社5月20日付、M社6月1日付文書]

- ・シリコーン製品のいくつかにトリブチルスズ化合物が不純物として含まれていることを確認したこと。
- ・トリブチルスズ化合物は、2008年12月17日付けでロッテルダム条約(PIC条約)の規制化学物質に追加されたこと。
- ・日本の国内法では、PIC条約に基づき、輸出貿易管理令別表第2の35の3項で規制され、2009年2月1日以降トリブチルスズ化合物を含む貨物の輸出にあたっては経済産業省の事前承認が必要となること。
- ・本件に係る輸出規制には金額や数量に基づく除外規定がないため、無償提供や少量輸出であっても事前承認が必要となること。
- ・シリコーン製品そのものを輸出しようとする場合には輸出承認が必要であるが、シリコーンを硬化させた成形品については許可不要である(規制に該当しない)ことを経済産業省に確認済みであること。

#### [S社7月29日付、M社7月31日付文書]

- ・7月29日付けの『「化学物質の輸出承認について」の一部改正』に伴い、両社ともに、シリコーン製品が輸出承認手続き不要となったこと。

(本稿は2009年8月24日付けでJEMIMA Webサイトに掲載した内容を編集したものです)

# PA・FA計測制御委員会 機能安全調査研究WG 活動報告

PA・FA計測制御委員会 機能安全調査研究WGは、機能安全規格であるJIS C 0508、JIS C 0511について調査研究を進め、機能安全に関する解説冊子の発行、JIS発行記念セミナー、また計測展の委員会セミナーを通して啓発活動を進めている。いまでは“機能安全”や“安全計装システム”という言葉の認知度も徐々に高まってきており、国内でも安全計装システムの導入が進みつつある。

## <刊行物>

- ・機能安全と JIS C 0508 –機能安全規格と安全計装システム– (2003.11)
- ・安全計装の理解のために「JIS C 0511 機能安全–プロセス産業分野の安全計装システム」の解説 (2009.6)

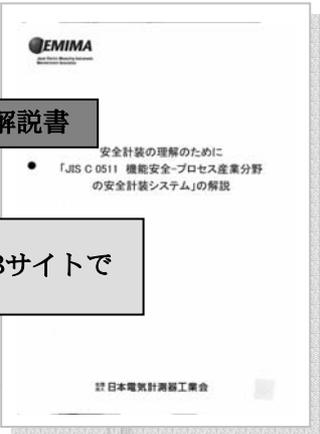
## <JIS C 0511 完成記念セミナー>

7月27日(月)に計測会館において、JIS C 0511の完成を記念して、解説書を作成すると共に、「JIS C 0511 完成記念セミナー」を開催した。セミナーでは、PA・FA計測制御委員会 伊藤委員長の主催者挨拶、東京海洋大学 佐藤教授の特別講演に引き続き、解説書の各章を機能安全調査研究WGメンバーが分担して解説した。

JIS C 0511 完成記念セミナー

JIS C 0511 解説書

全62page  
JEMIMA WEBサイトで  
販売中





伊藤委員長挨拶

セミナー参加者

WGメンバー発表

佐藤先生講演



# 「海外危機管理への啓蒙と体制構築」に関する講演会開催される

(社)日本電気計測器工業会(JEMIMA)  
国 際 委 員 会

国際委員会では、平成20年度に安全対策マニュアル作成ワーキンググループを発足させ、2001年米国同時多発テロ以降、海外での安全対策について、JEMIMA会員(以下 会員)への啓蒙を行うと同時に企業内での危機管理体制の構築を提言すべく活動を行ってきました。

その活動の一環として同委員会が会員向けに行った事前アンケート結果から、会員の多くが危機管理体制構築(海外におけるテロ、病気、新種ウイルス、事故等に対して)の必要性を感じていながらも、その体制が整っていないことがわかりました。この背景から、平成21年8月4日(火)に「海外危機管理への啓蒙と体制構築」と題して、(社)日本在外企業協会様から海外安全アドバイザーのエキスパート 萩 隆之介氏をお招きし、講演会を開催しました。

講演内容は、「1. 海外におけるリスクの種類」、「2. 日本における安全管理」、「3. 出張、駐在の渡航時の基本的注意」、「4. リスク別対応策」、「5. 新型インフルエンザ」を事例と危機現場の写真を交えて説明いただきました。

当日は、多数の会員各位殿からのご出席を頂き、盛況に講演会を終了することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



## 【国際委員会からのお知らせ】

国際委員会・安全対策マニュアル作成ワーキンググループでは、会員が社内で海外安全に関する危機管理体制を整えるためのきっかけとしてご利用いただくために、

『海外安全対策の手引き ～ リスク別対応例と安全対策チェック ～(非売品・会員限定)』/平成21年7月』を作成しました。

本内容は下記、会員向けwebサイト内の国際委員会サイトからダウンロードできます。

URL:<http://www.jemima.or.jp/jemima21/kokusai/index.html>

注)会員専用サイトの為、「ユーザ名とパスワード」が必要となります。

### 【主な掲載内容】:

JEMIMA会員 海外安全対策に関するアンケート調査結果

#### 1. リスク別対応例と安全対策チェック

- |                                |                   |
|--------------------------------|-------------------|
| 1-1. 事前の情報収集と確認事項              | 1-2. 出張前の健康管理     |
| 1-3. 航空機、交通事故、列車事故、その他交通機関での事故 |                   |
| 1-4. 戦争、内戦、クーデター、暴動            | 1-5. テロ、爆破        |
| 1-7. 自然災害                      | 1-8. 旅行者に対する詐欺行為例 |
| 1-9. 新型インフルエンザ感染予防マニュアルについて    | 1-6. ハイジャック、誘拐    |

#### 2. チェックリスト

#### 3. 海外渡航及び海外医療に関する情報サイト一覧

あとがき

※日本在外企業協会発行の書籍紹介

追補: ・新型インフルエンザの問題点

・新型インフルエンザ発生

・タミフル耐性ソ連型インフルエンザの出現

・新型インフルエンザの今後の展望

\* 追補協力: 荒木内科医院

## 計測展 2009 TOKYO 「相談コーナー」のご案内

社団法人 日本電気計測器工業会(JEMIMA) 法規制・規格委員会では、会員企業の皆様から共通して要望の強い、国内外のEMC及び電気/光安全に係る法的規制とそれに関連する規格の情報を、会員企業の皆様方に提供すべく活動しております。

現在、様々な電気製品における事故が報じられており、人命と財産を保護する製品安全は、製品開発に欠かせない要求事項となっております。また、電子機器から放射される電磁ノイズによる機器の誤動作が問題視されており、EMC対策の重要性がますます高くなっています。

このたび、財団法人 日本品質保証機構 殿、株式会社 フジセーフティ・サポート 殿の多大の協力を得て、計測展 2009 TOKYOで電気計測器及び関連製品のEMC及び電気/光安全の規格の相談コーナーを開催することになりましたので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

### 記

1. 日 時 : 2009年11月18日(水)~11月20日(金) 3日間 (10:00~12:00、13:00~17:00)
2. 会 場 : 東京ビックサイト(有明・東京国際展示場)西ホール  
〒135-0063 東京都江東区有明3-21-1 TEL:03-5530-1111  
<http://www.bigsight.jp/>
3. 参加費 : 無料  
(入場料 1,000円(消費税込み) ※事前登録者・招待券持参者は無料)
4. 参加者 : どなたでも参加できます。
5. 定 員 : 毎日6名(お一人様30分)(先着順で、定員になり次第締め切りとさせていただきます。)
6. スケジュール :

開催日	相談対象	相談対応者
11月18日(水)	電気計測器のEMC規格、安全規格	財団法人 日本品質保証機構 平岩様、小山様
11月19日(木)	電気計測器のEMC規格、安全規格	財団法人 日本品質保証機構 平岩様、小山様
11月20日(金)	IEC 61326-1、IEC 61010-1、IEC 60204-1、 IEC 60825、FDA(CDRH)	株式会社 フジセーフティ・サ ポート 藤ノ木様

7. 申込方法 : 申し込みは下記URLよりお願いいたします。  
[http://www.jemima.or.jp/seminar/2009/soudan\(091118\).html](http://www.jemima.or.jp/seminar/2009/soudan(091118).html)
8. 申込締切 : 2009年11月6日(金) 16:00
9. 主 催 : 社団法人 日本電気計測器工業会(JEMIMA) 法規制・規格委員会
10. お問い合わせ : 社団法人 日本電気計測器工業会(JEMIMA) 法規制・規格委員会 事務局 木村  
電話 : 03-3662-8184 E-mail : [houki@jemima.or.jp](mailto:houki@jemima.or.jp)

## 【セミナー・講演会 開催報告】

### 「技術戦略マップ2009」講演会 開催報告

JEMIMAは、経済産業省が策定した「技術戦略マップ2009」に関する講演会を初めて公開開催しました。経済産業省は、「技術戦略マップ」を2005年に発刊して以来、毎年バージョンアップを図り発行しています。本講演会は、研究開発に携わる技術者・管理者などを対象に、「技術戦略マップ」2009年度版の内容を理解いただくために開催しました。

特に、「技術戦略マップ2009」ではJEMIMAに関連の深い「計量・計測システム分野」が新たに追加されたので、本講演会はこの説明を中心にしました。

「技術戦略マップ」は、新産業の創造やリーディングインダストリーの国際競争力を強化していくために必要な重要技術を絞り込むとともに、それらの技術目標を示し、かつ研究開発以外の関連施策等を一体として進めるプランを総合的な技術戦略としてまとめたものです。いわば、産官学の研究開発投資の戦略的実施のナビゲーターともいえるべき俯瞰的ロードマップです。

当日の聴講者は51名と多く、質疑応答も活発で好評でした。

記

日時：平成21年7月21日（火）15時00分～17時00分

会場：計測会館 4階 401会議室

講師：経済産業省 産業技術環境局研究開発課 福田 賢一氏、竹村 文男氏、  
丸山 太一郎氏

テーマ：（1）技術戦略マップ2009年度版の概要

（2）計量・計測システム分野

（3）エネルギー分野

（4）ネットワーク分野

（5）3R分野



## ■ 刊行物 発行

### 新刊 「ハンドキャリー手続きマニュアル」

輸出管理委員会では、最新法令対応の第6版「ハンドキャリー手続きマニュアル」を2009年7月に発行いたしました。

豊富な書式見本、充実したQ&Aにより、ハンドキャリー未経験者にも通関手続きが簡単に理解できます。

・ A5 判サイズ、1,100円（一般価格・送料込み）／600円（JEMIMA会員価格・送料込み）

・ 5部以上申し込みされると、一般、会員共に1部につき100円割引となります。

例) 1,000円 X 5部 = 5,000円    500円 X 5部 = 2,500円となります。

#### 【ハンドキャリー手続きマニュアルの概要】

海外に出張する際、身の回り品の他に計測器や商品見本、修理用部品等を携行することがあります（いわゆるハンドキャリー）。

ハンドキャリーの場合、通関手続きを正しく行っていないと持ち帰った場合の入国通関に手間取ることがあり、通関手続きを知っておくことが大切です。

海外出張に携行する計測器等は、一定の範囲と条件の下では、旅具通関（口頭による輸出申告）やカルネ通関を用いることで、一般貨物の業務通関手続きに比べて簡単な通関手続きとなります。また、通常の業務通関手続きを行ったものでも手荷物として携行することができます。

このマニュアルは、主に成田国際空港及び関西国際空港での通関手続きについてまとめたものですが、国内の他の国際空港においても同様な手続きが必要となりますので、本マニュアルを参考にして適切な準備と効率的な手続きを行って頂ければ幸いです。

	<p>目次</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. はじめに</li><li>2. 海外出張の準備と注意事項</li><li>3. 通関手続きの種類</li><li>4. ATAカルネ（申請から取得まで）</li><li>5. 旅具通関の手続き</li><li>6. ATAカルネの通関手続き</li><li>7. 業務通関の手続き</li><li>8. 現地到着時の手続き</li><li>9. 帰国時の手続き</li><li>10. ハンドキャリーQ&amp;A</li><li>11. 用語解説</li></ol>
---	---

**お申し込み先：**輸出管理委員会 事務局 赤羽（TEL 03-3662-8182）まで

※購入申込書はJEMIMA Web サイト

[http://www.jemima.or.jp/info\\_c/0731had.html](http://www.jemima.or.jp/info_c/0731had.html)からお願いします。

---

## 新刊 安全計装の理解のために「JIS C 0511 機能安全—プロセス産業分野の安全計装システム」の解説

PA・FA計測制御委員会では、安全計装の理解のために「JIS C 0511 機能安全—プロセス産業分野の安全計装システム」の解説を2009年7月に発行いたしました。

2000年、IEC61508の翻訳規格であるJISC0508の発行を契機に、日本国内でも“機能安全”や“安全計装システム”という言葉の認知度が高まってきており、国内でも安全計装システムの導入が進みつつある。

さらに2003年にはプロセス産業向け機能安全規格としてIEC61511（第1部から第3部）が発行され、このJIS化が強く望まれたことから、JIS原案作成委員会を組織し2005年、2006年両年度に第1部および第2部、第3部の原案作成を行った。

IEC61511はIEC61508のプロセス産業向け機能安全規格であり、機能安全を構築するため必要な、安全計装システムの仕様決定、設計、設置、運転、メンテナンスから廃棄までの考え方及び要求事項が記載され、従来とは異なった規格となっている。本解説書では、機能安全規格について分り易く解説し、機能安全の理解と普及の一助とする。

(はじめに より)

価格：JEMIMA会員：1,000円、 一般：2,000円

お申し込み先：JEMIMA Webサイト <http://www.jemima.or.jp/issue/index.html>  
からお願いします。

---

## ■お知らせ

### ■新入会員

10月度理事会において、下記の団体が新入会員として承認されました。

#### 【賛助会員(団体)】

○平成21年6月30日

団体名：社団法人日本半導体製造装置協会

(Semiconductor Equipment Association of Japan)

代表者名：会長 東哲郎

工業会に対する代表者名：専務理事 常松政養

所在地：〒102-0085 東京都千代田区六番町3番地（六番町SKビル6F）

電話番号：03-3262-8260 ホームページアドレス：<http://www.seaj.or.jp>

### ■会員会社の社名変更

#### 【賛助会員】

○平成21年10月1日付

旧社名：株式会社エリスネット(事業譲渡により(株)エリスネットは解散)

新社名：株式会社豊通エレクトロニクス

(TOYOTA TSUSHO ELECTRONICS CORPORATION)

会員代表者：取締役専務 青木 厚

本社：〒451-6033 名古屋市西区牛島町6-1(名古屋ルセントタワー33F)

TEL：052-559-3333 URL：<http://www.toyotsu-electronics.co.jp>

### ■会員の退会

【賛助会員】 レクロイ・ジャパン株式会社 (平成21年9月末日付)

### ■平成21年10月20日現在の会員会社数

正会員 78社 賛助会員 25社6団体

# 経済産業省からのお知らせ

平成21年度調査票提出促進運動について

経済産業省経済産業政策局調査統計部

経済産業省経済産業政策局調査統計部が実施する各種統計調査につきましては、平素より御協力頂き、厚く御礼申し上げます。

皆様より提出された調査票は、当部において集計・加工・分析をした上で公表され、国・地方公共団体の行政施策の基礎資料、商工鉱業における企業経営資料として、さらには諸研究のための貴重なデータとして広く利用されております。また、社会経済の急激な変化や国民生活の多様化などに伴い、経済活動の現状を正しく見極める指標として、統計の果たす役割は一層重要性を増しております。

しかしながら、調査を取り巻く環境の悪化により、調査票の未提出、提出期日遅延、記入漏れ等の増加により、調査の使命である信頼性の高い調査結果を早期に公表するということが困難な状況にあります。

このため、経済産業省では、調査環境の変化に対応した調査内容の見直し等により報告者の記入負担の軽減に常々努めるとともに、調査対象企業・事業所に御理解と御協力を得つつ、調査を円滑に実施するため、各事業団体等加盟の調査対象企業・事業所のうち調査票の未提出等の事業所に対して改めて調査票提出の依頼を行う「調査票提出促進運動」を、毎年「統計の日」（10月18日）を中心として実施しております。

調査を取り巻く環境が悪化する中、より精度の高い統計を作成するためには、皆様の御協力により正確な調査票を所定の期日までに提出していただくことが何にもまして重要であります。

引き続き皆様の御理解を賜り、調査票の提出に御協力下さいますようお願い申し上げます。

## 【政府統計オンライン調査システムへの移行について】

現在ご利用いただいております新世代統計システムは、政府統計オンライン調査システムへ移行するため、平成22年2月に使用停止となります。政府統計オンライン調査システムへ未移行の皆様につきましては、早期の移行に御協力をお願い申し上げます。

★政府統計オンライン調査システムについては、経済産業省ホームページで紹介しておりますので、是非御覧下さいますようお願い申し上げます。

URL : <http://www.meti.go.jp/statistics/index.html>

親事業者との取引でお困りの  
中小企業の皆さま。

経済産業省・  
中小企業庁からの  
お知らせです。

弁護士無料相談・

下請ガイドライン説明会を  
全国各地で実施しています！

◎ 企業間取引に関する相談に弁護士が親身になって対応いたします。

◎ 業種別に「下請ガイドライン」を分かりやすく解説します。

詳しくは  
こちらまで

相談無料  
秘密厳守

「下請かけこみ寺」本部 (財)全国中小企業取引振興協会 | 下請かけこみ寺受付時間  
平日:9:00~12:00 / 13:00~17:00

**03-5541-6655**

下請かけこみ寺  検索 <http://www.zenkyo.or.jp/kakekomi/index.htm>

ガイドライン説明会事務局 (全国中小企業団体中央会) | ガイドライン説明会事務局受付時間  
平日:9:00~12:00 / 13:00~17:00

**03-3523-4902**

下請ガイドライン 説明会  検索 <http://www2.chuokai.or.jp/hotinfo/shitauke-guideline.htm>



中小企業のお役立ち情報を  
携帯電話でご覧になれます。

モバイル中小企業庁

検索



# 「システム コントロール フェア2009」開催のご紹介

計測展 2009 TOKYOの協賛団体である(社)日本電機工業会と(社)日本電気制御機器工業会が主催の「システム コントロール フェア2009」が11月25日から開催されます。

同展示会の概要は以下のとおりですので、ご来場されますようご紹介いたします。

## － システム コントロール フェア2009概要 －

システム コントロール フェア (SCF) は、1988年に「ハイテク時代の産業システムを考える…情報と設備の調和」をテーマとして第1回を開催し、以後、常にFA分野を中心とした最新情報を提供し、国内外から高い評価を得てきました。

今回で第15回目となるSCF2009は、産業界が直面している状況を踏まえ『ものづくりの未来へ。システムからコンポーネントまで「環境・安全・ものづくり」の追求』をテーマとし、「環境・省エネ」、「安全・セキュリティ」、「ものづくり」をキーワードに、人と環境に配慮し、産業分野に最適なシステム、コンポーネントからソフトウェアまでを一堂に集めて紹介すると共に、社会と産業の未来へ向けて先進の情報についても広く提供いたします。

今回の出展規模は、136社、473小間で、多くの最新情報が発信されます。

## ■開催要項

- ・会 期： 2009年11月25日(水)～11月28日(土) 4日間
- ・会 場： 東京ビッグサイト(有明:東京国際展示場)西1・2ホール
- ・開場時間： 10時～17時(最終日は16時30分まで)
- ・主 催： (社)日本電機工業会、(社)日本電気制御機器工業会
- ・後 援： 経済産業省、東京都、日本商工会議所、日本貿易振興機構(ジェトロ)、東京ビッグサイト

## ■出展対象品目

- ・FAコントロールシステム・機器
- ・情報伝送装置・周辺装置
- ・FA用ソフトウェア
- ・CAD/CAMシステム・関連機器
- ・自動認識装置・自動検査装置
- ・駆動制御装置
- ・制御コンポーネント
- ・アクチュエータ
- ・電源装置・機器
- ・配電機器
- ・安全制御機器
- ・IT応用システム・機器
- ・関連システム・機器

## ■SCF専用Webサイト (<http://scf.jp/> : 事前登録受付中)

開催概要や出展者一覧、会場内の小間(ブース)位置情報と出展者の基本情報(住所/電話/URL/出展品目名)等をご覧いただけます。

## <問合せ先>

〒102-0082 東京都千代田区一番町17番地4  
システムコントロールフェア実行委員会  
電話 03-3556-5885



システムコントロールフェア2009  
ものづくりの未来へ。  
一探していたヒントを見つける4日間

【出展品目】  
FAコントロールシステム・機器  
情報伝送装置・周辺装置  
FA用ソフトウェア  
CAD/CAMシステム・関連機器  
自動認識装置・自動検査装置  
駆動制御装置  
制御コンポーネント  
アクチュエータ  
電源装置・機器  
配電機器  
安全制御機器  
IT応用システム・機器  
関連システム・機器

会期：2009年11月25日[水]～28日[土]4日間 開場時間 10時～17時  
会場：東京ビッグサイト[有明:東京国際展示場]西1・2ホール

主催：JEMIA 日本電機工業会、NECA 日本電気制御機器工業会  
後援(協賛): 経済産業省、東京都、日本商工会議所、日本貿易振興機構(ジェトロ)、東京ビッグサイト

[来場者事前登録受付中] URL <http://scf.jp/>

お問い合わせ  
SYSTEM CONTROL FA 2009 システムコントロールフェア実行委員会  
〒102-0082 東京都千代田区一番町17番地4 電話:03-3556-5885 Fax:03-3556-5890

# 委員会開催録

## 総務・事業・広報部

### 《広報委員会》

開催 6月25日 場所 計測会館

内容

1. 委員会活動成果報告会の報告について
2. JEMIMA案内2009/2010について
3. JEMIMA Web サイト アクセス分析について

開催 7月23日 場所 計測会館

内容

1. 日本教育新聞への掲載原稿について
2. JEMIMAに入りませんかの改訂について
3. JEMIMA案内2009/2010について
4. 計測展バナー掲載位置変更・計測展の広報の仕方について
5. セミナー開催日程とテーマ
6. 見学会開催日程と見学先

開催 9月24日 場所 計測会館

内容

1. 計測展2009TOKYOについて
2. JEMIMA案内2009/2010について
3. JEMIMA Web サイトのトップ頁へのバナー掲載について
4. JEMIMA会報 10月発行、1月発行について

### 《知的財産権委員会》

開催 9月18日 場所 計測会館

内容

1. 知財マップWGの進捗状況と予算変更について
2. 講演会について
3. 知財実務研究会より(独)科学技術振興機構による「J-Dream II及びJ-Globalの説明会」参加者募集について
4. フリーディスカッション  
特許庁意匠部商標部との意見交換会について

### 《法規制・規格委員会》

開催 7月3日 場所 計測会館

内容

1. 各WG討議及び討議結果報告
2. 「電池セミナー」のプログラム説明
3. 計測器関連規格(IEC、JIS)の作成状況報告
4. IEC 61326-2-4のJIS化の要否について
5. 計測展2009TOKYO 相談コーナーについて
6. 定例情報交換会報告

ISO 13849-1の改訂内容、CEマーキングの整合規格に新規格が追加された場合の適用、IEC 61010-1において接触電流(漏れ電流)が3.5 mAを超える場合の対応、電圧試験(耐圧試験)において500 VAの試験機では電流量が不足の場合の対応について

開催 8月7日 場所 計測会館

内容

1. 「電池セミナー」の募集状況と対応について
2. 経済産業省と海外の最新情報及び課題・問題についての意見交換
3. 欧州訪問に関しての説明
4. 計測展2009 TOKYO 相談コーナーについて
5. 定例情報交換会報告  
カナダ オンタリオ州規制483/07の追加情報、部材調査(欧州機関の認定品ヒューズ、緑/黄色保護接地用編組線)、直流電圧で耐電圧試験を行う場合の試験方法、IEC/EN 61010で評価するトランスの試験、低電圧指令EN 62311(RF暴露要求)の測定事例紹介、IEC/EN 60204でDisconnecting Deviceのサージキラーを配置することについて

開催 9月11日 場所 計測会館

内容

1. 欧州訪問について
2. 計測展のパネル展示について
3. 環境グリーン委員会との合同「電池セミナー」の結果報告
4. IEC/TC65/WG13について情報展開について
5. 各WG討議及び討議結果報告
6. 定例情報交換会報告  
トラッキング防止/増し締め(定期点検)に関する各社の取り組み、長期使用におけるキャパシタ・トランジスタ・ICの寿命設定について、中国が始めた輸入計量器具検定の取締り、医用機器用トランスの周波数試験と耐電圧試験。

## 展示部

### 《展示会委員会》

開催 6月11日 場所 計測会館

内容

1. 計測展2009 TOKYOの進捗状況
2. 経済産業省との意見交換会
3. 報告事項

開催 9月10日 場所 計測会館

内容

1. 計測展2009 TOKYOの進捗状況
2. 計測展2008 OSAKAの開催

《展示会委員会・計測展実行委員会合同》

開催 7月9日 場所 ベルサール八重洲

内容

1. 計測展2009 TOKYO実行計画及び実行予算

開催 8月20日 場所 計測会館

内容

1. 企画委員会との合同会議報告
2. 企画展示コーナーの対応策

《計測展2009TOKYO第11回実行委員会》

開催 6月11日 場所 電子会館

内容

1. 出展申込み状況
2. 実行予算案の検討
3. プロモーション計画・印鎖物関連の見直し
4. セミナー企画の進捗状況
5. メインビジュアル案の検討
6. 出展マニュアル案の検討

《計測展2009TOKYO第12回実行委員会》

開催 6月29日 場所 計測会館

内容

1. 出展申込み状況
2. セミナー企画案の進捗状況
3. メインビジュアル案の検討
4. 出展マニュアル案の検討
5. 小間割原案の検討
6. 出展者説明会次第案
7. 広告媒体確認

《計測展2009TOKYO第16回実行委員会》

開催 9月10日 場所 計測会館

内容

1. 運営・実行体制のご提案.
  - 1) 提案経緯
  - 2) 実行委員会対応
2. 進捗状況の確認
  - 1) 出展規模
  - 2) アンケート調査票
  - 3) 同時開催展情報
  - 4) 案内状最終稿確認

企画・調査・国際部

《資材委員会》

開催 7月16日 場所 計測会館

内容

1. 「資材調達に共有する諸問題解決のための調整」事業の各社事例発表・質疑応答
  - 1) 製品競争力強化のCD事例
  - 2) リスク対応への事例
2. セミナー開催、工場視察、海外調達実態調査の担当などの詳細計画の審議・決定
3. その他

《輸出管理委員会》

開催 4月14日 場所 計測会館

内容

1. C I S T E C委員会への派遣者決定
2. 21年度分科会の体制と計画
3. STC-Expert勉強会開催計画
4. 平成21年度輸出管理委員会の計画
5. 20年度決算/21年度予算報告
6. 20年度活動報告書
7. 実地見学先の選定について

開催 5月13日 場所 計測会館

内容

1. 実地研修候補地について（募集）
2. 各分科会報告
  - 制度分科会、技術分科会、通関手続分科会
3. 外為法改正について
4. C I S T E C報告
5. STC-Expert勉強会（2次募集）
6. STC-Associate模擬試験について

開催 6月3日 場所 計測会館

内容

1. 平成20年度委員会活動成果報告会説明内容の紹介
2. 各分科会報告
  - 制度分科会、技術分科会、通関手続分科会
3. 法規制改正（リスト規制）について
4. C I S T E C報告
5. 実地研修候補地について
  - 東京税関に決定した。

開催 6月3日 場所 計測会館

内容

1. 実地研修（東京税関）計画状況について

2. 各分科会報告  
制度分科会、技術分科会、通関手続分科会
3. STC-Expert勉強会
4. STC-Associate直前勉強会
5. C I S T E C報告
6. リスト規制パブコメ報告
7. 外為法改正状況
8. 平成20年度委員会活動成果報告会の報告

**開催** 8月25日  
実地研修会を開催した。

**場所** 東京税関

**内容**

1. 展示場・検査場等の見学
2. 輸出通関事故または不備事例について
3. HSコード分類とは何か等について

**開催** 9月2日 **場所** 計測会館

**内容**

1. リスト規制改正について
2. 外為法改正について
3. 実施研修会（税関見学会）の議事録確認
4. 各分科会報告  
制度分科会、技術分科会、通関手続分科会、  
STC-Expert勉強会
5. C I S T E C報告
6. ハンドキャリア手続きマニュアル（第6版）  
販売開始の連絡

#### 《需要予測委員会》

**開催** 4月8日 **場所** 計測会館

**内容**

1. 講演会を開催した。  
講師：(社) 電子情報技術産業協会 古澤理事  
テーマ：「J E I T Aの需要予測の取組（独禁  
法等の関連問題など）」
2. 事業計画・予算確認
3. 2009年度（H21）活動方針について  
コンプライアンス対応について、中期ビジョン
4. 年間スケジュール確認

**開催** 5月13日 **場所** 計測会館

**内容**

1. 独禁法コンプライアンスへの対応
2. 2009年度（H21）活動方針について
3. JEMIMA統計システム 説明会開催報告

**開催** 6月10日 **場所** 計測会館

**内容**

1. 海外売上調査について
2. 委員会成果発表会の内容確認について
3. アクションプランの現状確認について

**開催** 7月8日 **場所** 計測会館

**内容**

1. 9月度講演会について
2. 各WG需要予測の進行状況の確認
3. 独禁法コンプライアンスへの取り組みについて

**開催** 8月19日 **場所** 計測会館

**内容**

1. 独禁法コンプライアンスの今後の進め方
2. 予測本の作成・編集について
3. 各WG需要予測の進行状況の確認

**開催** 9月9日 **場所** 計測会館

**内容**

1. 講演会を開催した。  
「日本国内外の景気動向」に関しての講演  
(社) 日本経済研究センター 竹内淳一郎氏
2. 独禁法コンプライアンスについて  
法律相談結果の報告
3. 各WG需要予測の進行状況の確認

## 技術・標準部

#### 《PA・FA計測制御委員会》

**開催** 6月24日 **場所** 計測会館

**内容**

1. 委員会参加企業 紹介（島津システムソリューションズ株式会社）
2. 平成20年度委員会活動成果報告会 報告
3. 7月の講演会について
4. 機能安全調査研究WG 7月のセミナー計画  
について
5. 6月度 TC65諮問委員会報告

**開催** 7月22日 **場所** 計測会館

**内容**

1. 委員会参加企業 紹介（新川電機株式会社）
2. 関西支部 戦略的基盤技術検討委員会との交  
流会について
3. 計装制御技術会議 企画委員会 報告
4. 成果編集タスクの計画について
5. 7月度 TC65諮問委員会報告

- 開催** 9月24日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 各WGからの中間報告
  2. ISA Standard & Practice Donald G. Dunn 氏 講演 報告
  3. 成果編集タスクの計画について
  4. 計測展2009 TOKYO 準備状況 報告
  5. 9月度 TC65諮問委員会報告

《校正事業進委員会》

- 開催** 7月24日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 報告事項
    - (1) 会員向け J C S S セミナー
    - (2) 会員向け J C S S 普及活動成果報告
    - (3) 計測標準フォーラム・啓発普及WG
    - (4) J C S S に関わる法令等の改正説明会
  2. 計測展2009 TOKYOについて
    - (1) 小間出展
    - (2) 委員会セミナーテーマ

- 開催** 8月28日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 計測展2009 TOKYOについて
    - (1) 小間出展内容及び小間当番
    - (2) 委員会セミナー個別テーマ内容

《温度計測委員会》

- 開催** 6月19日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. IEC/SC65B/WG5サンクトペテルブルク会議報告
  2. JIS C 1610 見直し作業
  3. JIS C 1604 見直しの進め方
  4. 見学会について

- 開催** 7月8日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 見学会について
  2. IEC 60751 対訳について
  3. JIS C 1604 見直しのポイントについて

《防爆計測委員会》

- 開催** 6月10日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 産業安全技術協会総会報告
  2. 産業安全技術協会との意見交換会の実施について

- 開催** 7月10日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 他の委員会との意見交換会の実施について
  2. 報告事項
    - (1) IEC/TC31委員会
    - (2) IECEXシステム国内審議委員会

《電子測定器委員会》

- 開催** 7月9日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 長期使用指針アンケート
  2. 補正予算関連紹介
  3. J E M A / J E I T A との交流について
  4. 会員企業の営業技術教育の紹介

- 開催** 8月28日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 情報通信審議会傍聴報告
  2. 日機連リスクアセスメント協議会参加報告
  3. 長期使用指針たたき台
  4. J E M A との交流
  5. 学校教育における測定活用提案書作成について
  6. 「技術戦略マップ2009」講演会報告

《電力量計委員会》

- 開催** 7月8日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 電気計器技術課題等研究会 WG2/WG4報告
  2. バッテリーフォークリフト充電電力量計測
  3. 補正予算設備投資

- 開催** 9月9日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 電気計器技術課題等研究会他経過報告
  2. 外資企業の J E M I M A 訪問
  3. J I S の見直し調査協力

《国際標準推進委員会》

- 開催** 6月10日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 委員会運営方針決定
  2. 他団体協業の進捗報告 (JEMA・JEITA)

- 開催** 8月26日 **場所** 計測会館  
**内容**
1. 委員会具体的運営テーマ決定
  2. 他団体協業の進捗報告 (JEMA・日機連)
  3. 標準化動向の配信計画案

《環境計測委員会》

開催 6月18日 場所 計測会館  
内容 (環境計測用語WGのみ開催した)

1. 環境計測用語WG：水質+ガス+H12年版JEMISを統合した結果、用語は計1,438件となった。今後内容を詰めていく。

開催 9月18日 場所 計測会館  
内容

1. 用語WG：前回の1,438件から全体で1,000件程度に絞り込むことになった。(前回の20%増程度)
2. 中国計量法WG：8月に幹事のみで統合版の見直しを行った。全体でおよそ60ページ程度になる予定。今後、本WGおよび法規制委員会によるチェックを経て編集作業に移る。

《放射線計測委員会》

開催 6月19日 場所 計測会館  
内容

1. 放射線障害防止法改正関連の動向など：安全規制検討会(5/21)の内容について報告があった。
2. IEC規格審議状況(IEC62598「線源容器の構造規格」、ISO7205)の報告があった。
3. RI協会より、以下の説明を頂き検討を行った。
  - 1) 放射線源登録制度 --- 放射線源登録制度の概要について
  - 2) 線源調達状況について --- 各線源調達状況と納期について

開催 7月23日 場所 計測会館  
内容

1. 放射線障害防止法改正関連の動向など：安全規制検討会(6/22)の内容について報告があった。  
理工学部会/放射線RI研究会(7/1~3)について報告があった。
2. IECの動向：TC45横浜会議準備について報告があった。登録者166名、同伴者16名(7/23時点)。

開催 9月4日 場所 計測会館  
内容

1. 放射線障害防止法改正関連の動向など：7/30に開催された安全規制検討会の報告があった。

2. 文科省による施行規則改正のパブリックコメント意見募集に伴い、改正内容検討のため8/28に法令検討委員会が開催され、その報告があった。
3. JIS動向：JIS原案 ヨウ素サンブラ、β線線量当量測定器校正方法、規格協会に原案提出。

《指示計器委員会》

開催 6月11日 場所 計測会館  
内容

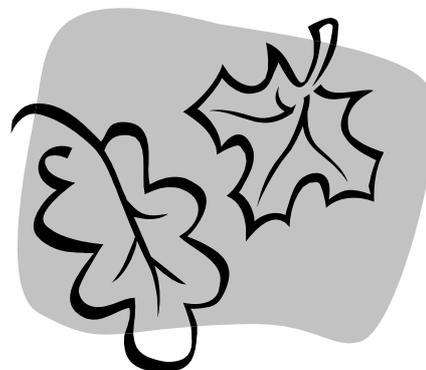
1. JIS C 1102改正について：実質改正の追補形式」で改訂を申請する方針で、工業標準化法に照らし、申請書案を検討し、書類作成を行った。

開催 7月9日 場所 計測会館  
内容

1. JIS C 1102改正について：追補改正の申請をJSAに提出後、経産省に直接提出するようにとのこと。また主旨紙を作成し、前回改正時の委員の合意を得ることを要請された。
2. トランスデューサの運用マニュアルの見直しを行った。

開催 9月10日 場所 計測会館  
内容

1. JIS C 1102改正について：追補用書式が、指示計器委員会案を基に、日本規格協会で作成頂いた。この内容を基に提出書類として、確認/訂正作業を行った。





(金額:百万円, 前年比:前年同期比増減率%)

生産	工業用計測制御機器												受信計						プロセス用分析計					
	PA用計測制御機器												その他の発信器						プロセス用分析計					
	発信器												差圧計						放射線測定器					
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比
2008(H20)暦年	523,400	10,886	52	342,401	11,400	-8.5	81,717	10,876	-6.2	163,759	16,104	-6.8	10,636	-10.9	936,789	14,792	-13.4	29,059	11,916	-17.1	27,768	11,418	-17.6	
2008(H20)年度	539,603	10,924	1.9	328,002	10,980	-8.4	73,016	10,770	-4.9	159,907	15,222	-10.3	10,048	-14.3	824,531	13,295	-19.4	27,059	11,916	-17.1	27,768	11,418	-17.6	
2008/07~09	132,388	2,775	3.9	95,413	3,305	-3.6	22,915	2,881	-1.9	49,458	4,826	0.0	2,579	-10.0	237,338	3,792	-9.2	8,134	3,356	-18.5	8,134	3,356	-18.5	
2008/10~12	121,043	2,677	0.8	80,896	2,599	-0.5	18,083	2,516	0.2	36,809	3,302	-9.1	2,570	-16.7	189,853	3,210	-22.2	6,156	3,218	-26.0	6,156	3,218	-26.0	
2009/01~03	147,642	2,806	7	70,707	2,570	-1.4	13,446	3,318	-3	36,946	3,582	-20	2,676	-23	143,806	2,586	-37	7,246	3,518	-12	7,246	3,518	-12	
2009/04~06	145,568	2,506	-7	71,499	2,137	-15	8,210	1,545	-25	31,588	2,523	-28	1,852	-23	125,817	2,138	-42	4,672	1,456	-35	4,672	1,456	-35	
2009/06	53,067	903	-6.3	28,244	795	-19.6	3,399	581	-24.3	11,830	944	-28.3	634	-13.5	48,341	842	-31.2	2,132	643	-29.1	2,132	643	-29.1	
2009/07	51,719	879	-10.0	18,783	626	-27.0	3,380	584	-22.6	8,788	803	-36.1	602	-20.8	58,963	858	-34.8	1,511	609	-20.6	1,511	609	-20.6	
2009/08	44,821	727	-4.8	22,125	815	-9.8	3,226	557	-28.2	11,352	1,003	-27.8	595	-25.2	46,394	731	-35.9	1,669	664	-36.5	1,669	664	-36.5	
2009/01~2009/08	389,750	6,918	-3.6	183,114	6,148	-15.3	28,262	6,004	-14.4	88,674	7,911	-25.5	5,725	-18.7	374,980	6,313	-38.4	15,098	6,247	-22.4	15,098	6,247	-22.4	
2009/04~2009/08	242,108	4,112	-6.7	112,407	3,578	-16.1	14,816	2,686	-25.1	51,728	4,329	-29.7	3,049	-19.3	231,174	3,727	-39.5	7,852	2,729	-32.4	7,852	2,729	-32.4	

生産	工業用計測制御機器												FA用計測制御機器						放射線測定器						環境計測機器					
	PA用計測制御機器												その他のPA計測制御機器						放射線測定器						環境計測機器					
	プロセス監視制御システム												その他のPA計測制御機器						放射線測定器						環境計測機器					
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比						
2008(H20)暦年	37,668	-1.3	0	-100.0	0	0	0	0	13,024	-4.9	21,344	6.5	39,080	-14.8	15,088	9,326	-4.4	26,484	24,730	6.0	26,484	24,730	6.0							
2008(H20)年度	35,563	-7.3	0	-100.0	0	0	0	13,223	13,223	4.6	19,293	-6.2	39,077	-15.9	14,971	9,570	0.8	24,730	24,730	6.0	24,730	24,730	6.0							
2008/07~09	10,212	-13.0	0	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!	3,403	3,403	-8.0	5,382	3.9	9,926	618	4,327	2,814	14.1	6,974	6,974	27.7	6,974	6,974	27.7							
2008/10~12	7,031	2.3	0	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!	3,067	3,067	27.7	3,981	-8.9	10,220	559	2,141	1,356	-10.2	5,911	5,911	4.4	5,911	5,911	4.4							
2009/01~03	12,408	-9	0	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!	4,728	4,728	4	4,773	-30	9,873	504	6,912	3,867	7	5,828	5,828	-16	5,828	5,828	-16							
2009/04~06	6,838	16	0	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!	2,831	2,831	40	3,186	-38	6,921	371	731	977	-36	4,300	4,300	-29	4,300	4,300	-29							
2009/06	2,344	-4.2	x	x	x	x	x	1,095	1,095	55.3	1,163	-15.7	2,653	153	425	370	-40.0	1,674	1,674	-26.0	1,674	1,674	-26.0							
2009/07	2,734	40.7	x	x	x	x	x	966	966	33.2	932	-22.3	2,594	110	1,494	645	1.1	1,370	1,370	-36.1	1,370	1,370	-36.1							
2009/08	2,890	20.6	x	x	x	x	x	682	682	-13.8	1,964	35.5	2,449	119	479	639	-9.6	1,202	1,202	-43.5	1,202	1,202	-43.5							
2009/01~2009/08	24,870	0.4	0	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!	9,207	9,207	14.1	10,855	-25.8	21,837	1,104	9,616	6,128	-5.7	12,700	12,700	-28.9	12,700	12,700	-28.9							
2009/04~2009/08	12,462	21.6	0	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!	4,479	4,479	26.5	6,082	-22.1	11,964	600	2,704	2,261	-21.4	6,872	6,872	-33.2	6,872	6,872	-33.2							

生産	環境計測機器			自動車用公害測定機器		
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比
2008(H20)暦年	63,396	25,647	22.9	4,753	837	-3.5
2008(H20)年度	59,431	24,020	7.2	4,111	710	-23.1
2008/07~09	15,955	6,758	27.9	1,220	216	21.3
2008/10~12	14,943	5,755	7.4	895	156	-48.2
2009/01~03	13,096	5,698	-11	816	130	-74
2009/04~06	11,166	4,178	-28	663	122	-41
2009/06	4,292	1,618	-26.4	296	56	-12.5
2009/07	3,435	1,347	-35.1	106	23	-67.1
2009/08	3,491	1,137	-44.7	275	65	-9.7
2009/01~2009/08	31,188	12,360	-28.4	1,860	340	-44.0
2009/04~2009/08	18,092	6,662	-33.0	1,044	210	-40.0

# 計測会館・界隈探訪(4)

＜日本橋七福神めぐり(Ⅲ)＞



七福神めぐりも残すはあと2神社

問屋街を抜けると江戸通りの鞍掛橋交差点に出ます。鞍掛橋と言っても、昔、掘割に掛かっていた橋の名が交差点の名として残っているだけで、今は堀も橋もありません。江戸時代、この馬喰町界限には馬市が立って、伝馬(宿場から宿場へ荷を運ぶ馬)が売買されていたそうで、きっとこの辺りでその伝馬に鞍を掛けていたのでしょう。鞍掛橋から江戸通りを西に歩くと小伝馬町に出ます。この江戸通りには、「こぶし」の街路樹が植わっていて、春になると枯れ木にハンカチを結び付けたような白い花がいっぱい咲いてとても綺麗です。

次の目的地、宝田恵比寿神社は小伝馬町交差点から直ぐですが、ここでちょっと寄り道。交差点の南北の通り(人形町通り)の西側を北方向に一本目の角を左に折れると、左手に「大安楽寺」というお寺があり、その道路脇に「江戸伝馬町処刑場跡」という



鞍掛橋の標識



江戸通りのこぶしの花



大安楽寺の処刑場跡碑

碑が立っています。この場所は、名奉行、大岡越前の話に出てくる江戸時代の「打ち首、獄門」などが行われた罪人処刑場の跡で、その向かいの「十思公園」は、その処刑場と共に在った「江戸牢獄屋敷」跡なのです。ここで処刑された「吉田松陰終焉の碑」も立っています。ちょっと不気味ですが、時間があればお参りして行きましょう。

十思公園の中央には、宝永8年(1711年)に完成した「石町(こくちょう)時の鐘」があります。この鐘は、日本橋付近の町に時を知らせていた鐘ですが、別名「慈悲の鐘」とも言われています。牢屋敷の死罪場では、「御江戸日本橋七ツ立ち」と歌われる七ツ(午後4時頃)の鐘を合図に死刑囚の首を刎ねたと言われ、鐘突番の辻源七は、死刑者があると聞くと、その日の鐘を打つ時刻をわざと遅らせたということです。今では、近くのOLやサラリーマンの昼休みの休憩場所になっています。



「石町時の鐘」  
この鐘で江戸庶民に時を知らせていた。



取り残されたように建つ  
宝田恵比寿神社



今年のべったらしは、  
10月19日、20日に  
行われました。

小伝馬町の交差点に戻り、江戸通りを西に行きながら路地を左折し一本目を右折して江戸通りに平行で一つ南側の通りを数ブロック行くと、右側の駐車場の隣に十坪ほどの、境内も無い小さな神社がポツンとあります。えっ!と思うかも知れませんが、ここが宝田恵比寿神社で、勿論、恵比寿様が祀られています。恵比寿様はご存知、商売繁盛と金運の神様ですので、小さいけど、ちゃんとお参りして行きましょう。さて、この宝田恵比寿神社は、毎年10月に「宝田恵比寿神社大祭」を行います。この大祭、別名、日本橋「べったらし」と呼ばれていて、この名の方が有名です。我々の次の目的地である「相森(すぎのもり)神社」も恵比寿様を祀っているため、同時に「相森恵比寿神社祭」として祭りを行います。べったらしは、宝田恵比寿神社の恵比寿講が始まりとされていますが、今では両神社に多くの露店が集まり、その境も無く



相森(すぎのもり)神社

く合わせて「日本橋恵比寿講べったらし」として大変賑わっています。相森神社は、宝田神社の前の通りを人形町通りの方に戻り、本通に出る一つ手前の道を右折し南に下ると、左手に在ります。ご紹介が間に合わずに残念でしたが、今年のべったらしは、10月19日(月)20日(火)の両日行われました。なお、11月から12月に掛けては、先に紹介いたしました松島神社で西の市、人形町商店街では、お正月用品を販売する夜店がたちます。こちらは、まだ間に合いますので、是非お出かけ下さい。(文:春野浦良)

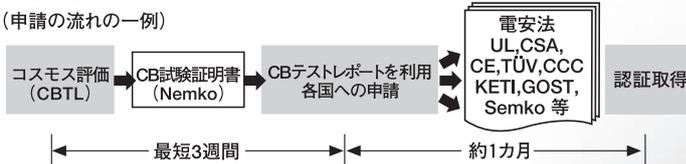
# 全世界の製品安全サービスを

支えて23年 高い技術力で皆様をサポートしております。

## 1 世界各国への申請代行業務

世界各国への同時申請がCBテストレポートで効率よく行えます  
お客様の認証取得計画に合わせ、最適、最速の方法で申請させて頂きます。

(申請の流れの一例)



CBテストレポートがあれば申請先 (CB加盟国) 各国の評価は適用IEC規格と各国の相違点についてのみ実施することになり、評価費用の大幅削減ができます。(個別にEMC評価を要求する申請国がありますので、事前にお問合せください)。

(主な特長)

- ◆CB試験所に国際認定されているため、CBスキームに加盟する国々への同時輸出に向けた安全規格申請が可能。
- ◆世界の認証機関と提携しており、ネットワークを活かした低コストかつスピーディーな認証取得を実現。
- ◆サンプルを送ることなく、多数の国の安全認証取得をサポート。

### コスモス安全マーク表示制度



CSCマークは信頼できる第三者認証

製品の信頼性を高めるために、第三者試験機関 (登録検査機関) からの保証 (審査) を受ける企業が増加しています。CSCマークは安全評価・認証業務・申請代行における当社発行の認証製品安全マークであり、製品の品質を保証する第三者認証マークとして高い信頼を得ています。

### 韓国、台湾

#### ●韓国…EK(KC)マーク

KETI, KTLのいずれかの機関におけるEK(KC)マークも取得できます。KETIにおいては当社のNemko CBテストレポート、EMC試験データ、工場検査データを利用することで、サンプルを現地に送付することなくEK(KC)マークが取得できます。

#### ●韓国KCCマーク

認証取得手続き、サンプル送付、大型機器の日本での来日立会い評価のセッティングをいたします。

#### ●台湾BSMI

BSMIより登録試験所として認定されています。当社のNemko CBテストレポートがBSMI指定試験所で受け入れられます。大型機器の当社でのBSMI検査官の来日立会い評価も実施できます。



## 2 EMC

### ◆主な評価対象製品

AV機器 車載電子機器 大型機械、設備、装置 医療機器 無線機器 など

### ◆対応規格

●欧州規格 CISPR ●欧州EN ●オーストラリア/ニュージーランドAS/NZS  
●日本JASO・ISO規格 ●eマーク など

### ◆対応法令

日本/電波法、電気用品安全法、業事法

### ◆申請代行先

●米国FCC ●カナダIC ●台湾BSMI ●中国CCC ●韓国EK(KC)/KCC ●ロシアGOST-R など

### ◆サイト認定状況

日本VCCI登録サイト、米国FCC認定サイト、米国NVLAP認定サイト、ノルウェーNemko認定サイト  
日本TUVラインランド Appointed Lab、台湾BSMI EMI認定ラボ

### ◆EMI測定例

電界強度測定 磁界強度測定 雑音端子電圧測定 クリックノイズ測定 電源高調波電流測定  
電源電圧変動フリッカー測定 プロ用オーディオ・ビデオ機器 EN55103-1 雑音妨害電力測定  
※その他各種規格に対応します。

### ◆EMS測定例

静電気放電 EN61000-4-2 放射磁界 EN 61000-4-3 ファーストランジェント・バースト EN 61000-4-4  
サージ EN 61000-4-5 電導妨害 EN 61000-4-6 電源周波数磁界 EN 61000-4-8  
電圧ドロップ・瞬断・電圧変動・突入電流 EN 61000-4-11 減衰振動波 EN 61000-4-12  
プロ用オーディオ・ビデオ機器 EN55103-2 ※その他各種規格に対応します。



## 3 電気通信事業法 端末機器技術基準適合認定業務

登録認定機関として総務省に登録を受けており、電気通信事業法に基づく端末機器の技術基準適合認定、設計認証および技術的条件の認定を行うことができます。



株式会社 コスモス・コーポレイション

## 4 電気用品安全法の一般的業務

- (1) 特定電気用品以外の電気用品の基準適合確認試験（依頼試験）  
「各種電気用品」の技術基準適合試験や雑音の強さの測定等 項目毎の依頼試験を行います。
- (2) 電安法の各種試験・調査や電気用品に該当しない一般的な信頼性・寿命評価等
- (3) 製造事業者／輸入事業者の開始届けや変更届けの手続き業務支援  
製造事業者／輸入事業者などの官公庁宛の届出手続き業務を支援します。
- (4) 「型式の区分」表など各種届出書類の作成  
専門的知識が必要な「型式の区分」表などの書類を作成します。  
又、製品の対象・非対象の判断支援や電安法遵守業務の支援も行います。
- (5) 社内自主検査・試験の支援  
電安法では製造事業者・輸入事業者は、各種検査の実施、記録作成・保存を必要とします。  
弊社では委託契約を結んだ上、部品検査・材料検査、試料検査等様々な検査のご支援を行います。  
又、品質不良・クレーム分析試験、寿命試験、信頼性試験など様々な試験や検査を行います。

## 5 薬事法指定管理医療機器認証

平成17年4月1日付けで厚生労働省より登録認証機関として登録されました。これにより全ての区分の指定管理医療機器の認証業務が可能です。認証のための製品書類審査及び品質システム審査（QMS省令適合性調査）に加え、ご要望に応じ当社の試験部門にて申請前の評価試験業務についても対応させていただきます。

- (1) 能動型植込み機器 (2) 麻酔・呼吸用機器 (3) 歯科用機器 (4) 放射線及び画像診断機器
- (5) 施設用機器 (6) 非能動型植込み機器 (7) 眼科及び視覚用機器 (8) 再使用可能機器
- (9) 単回使用機器 (10) 家庭用マッサージ器、家庭用電気治療器及びその関連機器 (11) 補聴器
- (12) 医用電気機器 ※体外診断用医薬品の認証業務は現在行っておりません。

## 6 電波法特定無線設備認証

登録証明機関として総務省に登録されました。これにより無線LAN、Bluetooth等の短距離無線装置に対して認定審査及び認証書の発行が可能です。

- 市民ラジオ
- コードレス電話
- 特定小電力機器
- 小電力セキュリティ
- 超広帯域(UVVB)無線システム
- 2.4GHz帯高度化小電力データ通信システム
- 2.4GHz帯小電力データ通信システム
- 準ミリ波帯小電力データ通信システム
- 5GHz帯小電力データ通信システム
- 5GHz帯無線アクセスシステム用陸上移動局
- PHS陸上移動局
- デジタルコードレス電話
- 狭域通信システム用移動局
- 狭域通信システム用試験局

## 7 ISO支援

【ISO9001/14001/OHSAS 18001】専属コンサルタントにより、準備から認証取得まで支援いたします。お客様の体制や取得のねらいにあわせた支援業務を、低コストで実施いたします。

## 8 計測機器の計量法に基づく校正

JCSSとは“計量法校正事業者登録制度”のことであり、国が定めた度量衡に適合した“ものさし”で定規や電流計など一般の測定器の正確性を検査・校正し、証明書を発行する資格が認められます。ISO9001で認定を受けている企業においては、国家標準器へのトレサビリティ証明になります。

【設定項目】直流電圧、直流電流、交流電圧、交流電流、直流抵抗、交流電力



当社は、認定基準としてJIS Q 17025 (ISO/IEC 17025)を用い、認定スキームをISO/IEC17011に従って運営されているJCSSの下で認定されています。JCSSを運営している認定機関(IA Japan)は、アジア太平洋試験所認定協力機構(APLAC)及び国際試験所認定協力機構(ILAC)の相互承認に署名しています。当社は、国際MRA対応JCSS認定事業者です。JCSS0144は、当社の認定番号です。

## 9 有限責任中間法人 日本エステティック工業会からの依頼検査を担当しております。

営業本部 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町718-1 TEL 0598-30-5225 FAX 0598-30-5571  
E-mail: [sales@cosmos-corp.com](mailto:sales@cosmos-corp.com)  
URL <http://www.safetyweb.co.jp>

営業本部までお問い合わせ下さい。

国内最大の計測・制御技術の専門展

# 計測展 2009 TOKYO

## 計測と制御で創る、未来の地球

会期: 2009.11.18 (水) ~ 20 (金) 10:00 ~ 17:00

会場: 東京ビッグサイト (有明・東京国際展示場) 西ホール

主催: **JEMIMA** 社団法人 日本電気計測器工業会 共催: 日経BP社

後援: 文部科学省、経済産業省、環境省 協賛: (独)産業技術総合研究所、(独)製品評価技術基盤機構、日本電気計器検定所、(財)日本品質保証機構、日本貿易振興機構 (ジェトロ)、(社)計測自動制御学会、(社)日本機械学会、(社)日本計量機器工業連合会、(社)日本電機工業会、(社)日本電気制御機器工業会、(社)日本分析機器工業会  
入場料: 1,000円(消費税込み) ※事前登録・招待券持参者は無料

**基調講演** 無料 事前申込制

**K1 11月18日(水) 11:00~12:30**

**人工衛星「いぶき」による宇宙からの温室効果ガス濃度の高精度計測と国際協力**

独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙利用ミッション本部  
GOSATプロジェクトチーム プロジェクトマネージャ事務代理  
中島 正勝 氏

**特別基調講演** 無料 事前申込制

**K2 11月18日(水) 14:30~16:00**

**研究開発戦略と技術戦略マップーオープンイノベーションに向けてー**

経済産業省 産業技術環境局 研究開発課 企画官  
福田 賢一 氏

**講演会** 無料 事前申込制

**K3 11月19日(木) 11:00~12:45**

**イノベーションの時代における国際標準化**

① 国際標準化の戦略的展開と最近の動向  
経済産業省 産業技術環境局 情報電子標準化推進室長  
井上 幹邦 氏

② 国際標準化活動は事業に貢献する  
国際電気標準会議 評議会委員、三菱電機(株) 開発本部役員技監  
八木 重典 氏

③ 国際標準化の動向と計測自動制御学会の果たすべき役割  
電気通信大学 システム工学科教授、SICE国際標準化委員会委員長  
新 誠一 氏

**基調講演** 無料 事前申込制

**K4 11月19日(木) 13:30~15:00**

**新エネルギー時代の計測制御技術展望**

① 次世代生産システムと計装制御技術  
(社)計測自動制御学会フェロー、元三菱化学株式会社 理事  
元名古屋工業大学 工学研究科 教授 工学博士 伊藤 利昭 氏

② 変革をリードする  
日揮株式会社 常務取締役 エンジニアリング本部長兼情報システム統括担当役員(CIO)  
三浦 秀秋 氏

**基調講演** 無料 事前申込制

**K5 11月20日(金) 11:00~12:30**

**新興国市場とオーバースペックシンドローム**

立命館大学 経営学部 准教授 東京大学ものづくり経営研究センター特任研究員  
善本 哲夫 氏

### 専門カンファレンス

**C1 11月18日(水) 13:30~15:30**

**エネルギーの情報化とスマートグリッド**

京都大学 大学院情報学研究所 教授  
松山 隆司 氏

**稚内メガソーラー発電所における計測技術**

北海道電力株式会社 総合研究所 太陽光発電プロジェクト推進室 室長  
斉藤 裕 氏

●「日経エレクトロニクス」半年間(13冊)購読付き\*

**C2 11月19日(木) 13:30~15:30**

**高速伝送系設計と波形品質評価の勤所**

日立情報通信エンジニアリング株式会社  
プラットフォームテクノロジー事業部 シニアスペシャリスト  
高田 芳文 氏

**高速伝送のジッタ・ワンド計測手法と標準化**

アンリツ株式会社 R&D統括本部 第1商品開発部 担当部長  
石部 和彦 氏

●「日経エレクトロニクス」半年間(13冊)購読付き\*

**C3 11月20日(金) 13:30~15:30**

**3次元システム化構想を支える5つのポイント**

コグネックス株式会社 MVSDマーケティング本部 本部長  
池田 政昭 氏

**人の五感による「官能検査」の自動化**

パナソニック電工株式会社 制御技術応用研究所 副参事  
池田 和隆 氏

●「日経ものづくり」半年間(6冊)購読付き\*

### チュートリアル

**T1 11月18日(水) 13:30~15:30**

**電子計測技術者のためのアナログ技術再入門(1) 測定対象物からAD変換器まで**

神奈川工科大学 工学部 電気電子情報工学科 教授 小室 貴紀 氏

**電子計測技術者のためのアナログ技術再入門(2) AD変換器のデジタル誤差補正・自己校正技術**

群馬大学 大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 教授 小林 春夫 氏

●「日経エレクトロニクス」半年間(13冊)購読付き\*

**T2 11月19日(木) 13:30~15:30**

**電子機器内のEMC問題の評価手法と対策ーデジタル無線通信機能を持つモバイル機器における自家中毒ー**

太陽誘電株式会社 EMCセンター課長  
風間 智 氏

●「日経エレクトロニクス」半年間(13冊)購読付き\*

**T3 11月20日(金) 13:30~15:30**

**実時間高速ビジョンとその工業応用について**

広島大学 工学研究科 複雑システム工学専攻 教授  
石井 抱 氏

●「日経ものづくり」半年間(6冊)購読付き\*

\*現在購読中の方は、知入のギフトまたは期間延長も可能です。 ※講演内容、講演者などは都合により予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

**JEMIMA委員会セミナー** 無料 事前申込制

JEMIMA委員会活動として展開している各種テーマのうち、特に注目の分野について最新情報をわかりやすく紹介します。

**テクニカルセミナー** 無料 事前申込制

企業戦略や製品の特徴、ユーザー事例、サポートなどをより詳細に出展者がプレゼンテーションします。

展示会事前登録、セミナー事前申込と最新情報は  
<http://www.jemima.or.jp>

サイトから  
事前登録で  
入場料が  
無料に!